

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄							備考
計画の区分	研究科の専攻の設置（国際連携専攻）							
フリガナ設置者	コクワツガイカクホジシヨク ノコヤダイカク 国立大学法人 名古屋大学							【連携外国大学の設置者】 タイ王国
フリガナ大学の名称	ノコヤダイカクダクイン 名古屋大学大学院（Graduate School of Nagoya University）							【連携外国大学の名称】 Kasetsart University (มหาวิทยาลัยเกษตรศาสตร์)
大学本部の位置	愛知県名古屋市千種区不老町1							【連携外国大学の本部の位置】 Kasetsart University 50 Ngam Wong Wan Rd, Lat Yao Chatuchak Bangkok 10900
大学の目的	名古屋大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与するとともに、学術の研究者、高度の専門技術者及び教授者の養成を目的とする。							
新設学部等の目的	長期にわたる研究・教育の交流を背景に、名古屋大学生命農学研究科が培ってきた先端的な研究をカセサート大学が有する広大な農林地での実証研究として展開する。異なる視点の研究の融合を通じて、東南アジア地域でしか得られない豊富な遺伝資源の利活用を図る。 このような研究活動を通じて、学生を海外の学術環境、文化、システムの中で教育することにより、農学的な知識や様々な実験手法を習得するだけでなく、異文化適応能力や問題解決能力に優れた博士人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	生命農学研究科 (Graduate School of Bioagricultural Sciences) 名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻（農学博士課程） (International Collaborative Program in Agricultural Sciences between Nagoya University and Kasetsart University)	3年	2人 <42>	—	6人 <126>	博士（農学） (Doctor of Philosophy (Agricultural Sciences))	平成30年4月 第1年次	愛知県名古屋市千種区不老町1
	計	—	2	—	6			【連携外国大学の学部等及び所在地】 Kasetsart University Graduate School Faculty of Agriculture 50 Thanon Ngam Wong Wan, Khwaeng Lat Yao, Khet Chatuchak, Krung Thep Maha Nakhon 10900 Nakhon Pathom, 73140 <>は本専攻を置く研究科全体の入学定員等

同一設置者内における変更 状況（定員の移行，名称の 変更等）	生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻 （博士後期課程）〔定員減〕（△1）（平成30年4月） 動物科学専攻 （博士後期課程）〔定員減〕（△1）（平成30年4月） 森林・環境資源科学専攻（平成29年4月事前伺い書類提出済み） （博士課程前期課程）（ 27） （博士課程後期課程）（ 7） 植物生産科学専攻（平成29年4月事前伺い書類提出済み） （博士課程前期課程）（ 30） （博士課程後期課程）（ 9） 動物科学専攻（平成29年4月事前伺い書類提出済み） （博士課程前期課程）（ 28） （博士課程後期課程）（ 7） 応用生命科学専攻（平成29年4月事前伺い書類提出済み） （博士課程前期課程）（ 66） （博士課程後期課程）（ 17） 生物圏資源学専攻（廃止） （博士課程前期課程）（△35） （博士課程後期課程）（△10） 生物機構・機能科学専攻（廃止） （博士課程前期課程）（△37） （博士課程後期課程）（△11） 応用分子生命科学専攻（廃止） （博士課程前期課程）（△39） （博士課程後期課程）（△12） 生命技術科学専攻（廃止） （博士課程前期課程）（△28） （博士課程後期課程）（△ 9） ※ 平成30年4月学生募集停止 国際開発研究科 国際開発協力専攻（平成29年4月事前伺い書類提出済み） （博士課程前期課程）（ 44） （博士課程後期課程）（ 22） 国際開発専攻（廃止） （博士課程前期課程）（△22） （博士課程後期課程）（△11） 国際協力専攻（廃止） （博士課程前期課程）（△22） （博士課程後期課程）（△11） ※ 平成30年4月学生募集停止								
	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
教育課程	新設学部等の名称	講義	演習	実験・実習	計	卒業要件単位数			
	生命農学研究科 名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻	0 科目	0 科目	1 2 科目	1 2 科目	4 8 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
	新設	生命農学研究科	教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人	助手 人	【連携外国大学と調整を行う専任教員の状況等】 人数：1名 職位：助教 所属：名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻
		名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻	48 (48)	44 (44)	14 (14)	26 (26)	132 (132)	0 (0)	
分	計	48 (48)	44 (44)	14 (14)	26 (26)	132 (132)	0 (0)	0 (0)	

学部等の名称	専任教員等						兼任 教員等
	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	人	人	人	人	人	人	人
人文学研究科 人文学専攻 (博士課程)	60 (60)	44 (44)	1 (1)	7 (7)	112 (112)	0 (0)	25 (25)
教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士課程)	14 (14)	8 (8)	1 (1)	1 (1)	24 (24)	0 (0)	10 (10)
心理発達科学専攻 (博士課程)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	3 (3)
法学研究科 総合法政専攻 (博士課程)	24 (24)	13 (13)	16 (16)	2 (2)	55 (55)	2 (2)	23 (23)
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	16 (16)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	41 (41)
経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士課程)	12 (12)	12 (12)	2 (2)	2 (2)	28 (28)	0 (0)	10 (10)
産業経営システム専攻 (博士課程)	6 (6)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	20 (20)
情報学研究科 数理情報学専攻 (博士課程)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	18 (18)
複雑系科学専攻 (博士課程)	13 (13)	7 (7)	1 (1)	4 (4)	25 (25)	0 (0)	27 (27)
社会情報学専攻 (博士課程)	4 (4)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	16 (16)
心理・認知科学専攻 (博士課程)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	18 (18)
情報システム学専攻 (博士課程)	10 (10)	9 (9)	0 (0)	5 (5)	24 (24)	0 (0)	15 (15)
知能システム学専攻 (博士課程)	9 (9)	9 (9)	0 (0)	6 (6)	24 (24)	0 (0)	12 (12)
理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻 (博士課程)	9 (9)	12 (12)	5 (5)	7 (7)	33 (33)	0 (0)	45 (45)
物質理学専攻 (博士課程)	16 (16)	14 (14)	7 (7)	21 (21)	58 (58)	0 (0)	27 (27)
生命理学専攻 (博士課程)	10 (10)	9 (9)	10 (10)	22 (22)	51 (51)	0 (0)	18 (18)
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻 (博士課程)	55 (55)	45 (45)	24 (24)	46 (46)	170 (170)	0 (0)	0 (0)
医学系研究科 総合医学専攻 (博士課程)	71 (71)	58 (58)	78 (78)	152 (152)	359 (359)	0 (0)	16 (16)
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	71 (71)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	79 (79)	0 (0)	0 (0)
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	69 (69)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	79 (79)	0 (0)	0 (0)
医科学専攻 (修士課程)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	26 (26)
看護学専攻 (博士課程)	13 (13)	8 (8)	2 (2)	14 (14)	37 (37)	0 (0)	11 (11)
医療技術学専攻 (博士課程)	14 (14)	8 (8)	2 (2)	8 (8)	32 (32)	0 (0)	14 (14)
リハビリテーション療法学専攻 (博士課程)	8 (8)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	17 (17)	0 (0)	12 (12)
工学研究科 有機・高分子化学専攻 (博士課程)	8 (8)	8 (8)	3 (3)	8 (8)	27 (27)	0 (0)	53 (53)
応用物質化学専攻 (博士課程)	7 (7)	7 (7)	1 (1)	7 (7)	22 (22)	0 (0)	61 (61)
生命分子工学専攻 (博士課程)	7 (7)	7 (7)	1 (1)	5 (5)	20 (20)	0 (0)	42 (42)

教員組織の概要

既設分

学 部 等 の 名 称	専任教員等						兼 任 教員等
	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
工学研究科							
応用物理学専攻 (博士課程)	9 (9)	9 (9)	1 (1)	10 (10)	29 (29)	0 (0)	58 (58)
物質科学専攻 (博士課程)	9 (9)	6 (6)	1 (1)	10 (10)	26 (26)	0 (0)	48 (48)
材料デザイン工学専攻 (博士課程)	8 (8)	3 (3)	2 (2)	4 (4)	17 (17)	0 (0)	14 (14)
物質プロセス工学専攻 (博士課程)	7 (7)	4 (4)	3 (3)	6 (6)	20 (20)	0 (0)	45 (45)
化学システム工学専攻 (博士課程)	6 (6)	8 (8)	1 (1)	7 (7)	22 (22)	0 (0)	46 (46)
電気工学専攻 (博士課程)	8 (8)	6 (6)	1 (1)	5 (5)	20 (20)	0 (0)	78 (78)
電子工学専攻 (博士課程)	13 (13)	6 (6)	1 (1)	12 (12)	32 (32)	0 (0)	73 (73)
情報・通信工学専攻 (博士課程)	9 (9)	9 (9)	0 (0)	7 (7)	25 (25)	0 (0)	64 (64)
機械システム工学専攻 (博士課程)	11 (11)	9 (9)	1 (1)	10 (10)	31 (31)	0 (0)	51 (51)
マイクロ・ナノ機械理工学専攻 (博士課程)	7 (7)	8 (8)	0 (0)	5 (5)	20 (20)	0 (0)	59 (59)
航空宇宙工学専攻 (博士課程)	10 (10)	2 (2)	4 (4)	6 (6)	22 (22)	0 (0)	48 (48)
エネルギー理工学専攻 (博士課程)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	15 (15)	0 (0)	45 (45)
総合エネルギー工学専攻 (博士課程)	5 (5)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	44 (44)
土木工学専攻 (博士課程)	9 (9)	9 (9)	1 (1)	7 (7)	26 (26)	0 (0)	53 (53)
生命農学研究科							
生物圏資源学専攻 (博士課程)	12 (12)	9 (9)	2 (2)	8 (8)	31 (31)	0 (0)	8 (8)
生物機構・機能科学専攻 (博士課程)	12 (12)	10 (10)	3 (3)	12 (12)	37 (37)	0 (0)	8 (8)
応用分子生命科学専攻 (博士課程)	9 (9)	11 (11)	1 (1)	9 (9)	30 (30)	0 (0)	6 (6)
生命技術科学専攻 (博士課程)	4 (4)	5 (5)	2 (2)	7 (7)	18 (18)	0 (0)	28 (28)
国際開発研究科							
国際開発専攻 (博士課程)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	10 (10)
国際協力専攻 (博士課程)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	7 (7)
多元数理科学研究科							
多元数理科学専攻 (博士課程)	24 (24)	21 (21)	1 (1)	7 (7)	53 (53)	0 (0)	18 (18)
環境学研究科							
地球環境科学専攻 (博士課程)	15 (15)	12 (12)	2 (2)	6 (6)	35 (35)	0 (0)	31 (31)
都市環境学専攻 (博士課程)	13 (13)	11 (11)	3 (3)	4 (4)	31 (31)	0 (0)	18 (18)
社会環境学専攻 (博士課程)	11 (11)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	5 (5)
創薬科学研究科							
基盤創薬学専攻 (博士課程)	8 (8)	3 (3)	2 (2)	6 (6)	19 (19)	0 (0)	2 (2)
計	588 (588)	456 (456)	165 (165)	437 (437)	1,646 (1,646)	2 (2)	- (-)
合 計	588 (588)	456 (456)	165 (165)	437 (437)	1,646 (1,646)	2 (2)	- (-)

教員組織の概要

既設分

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	申請大学全体				
	事 務 職 員		665 (665)	1,382 (1,382)	2,047 (2,047)					
	技 術 職 員		1,685 (1,685)	822 (822)	2,507 (2,507)					
	図 書 館 専 門 職 員		51 (51)	— (—)	51 (51)					
	そ の 他 の 職 員		1 (1)	168 (168)	169 (169)					
	計		2,402 (2,402)	2,372 (2,372)	4,774 (4,774)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	申請大学全体 うち附属病院 51,789㎡				
	校 舎 敷 地	617,966 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	617,966 ㎡					
	運 動 場 用 地	105,994 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	105,994 ㎡					
	小 計	723,960 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	723,960 ㎡					
	そ の 他	2,495,186 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,495,186 ㎡					
	合 計	3,219,146 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,219,146 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	申請大学全体				
		578,743 ㎡ (578,743 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	申請大学全体				
	234室	240室	1,326室	17室 (補助職員 1人)	14室 (補助職員 0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		生命農学研究科名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻		122 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	申請大学全体		
	生命農学研究科名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻	110,852 [50,831] (110,852 [50,831])	4,325 [1,354] (4,325 [1,354])	21,081 [21,009] (21,081 [21,009])	116 [14] (116 [14])	0 (0)	0 (0)			
	計	110,852 [50,831] (110,852 [50,831])	4,325 [1,354] (4,325 [1,354])	21,081 [21,009] (21,081 [21,009])	116 [14] (116 [14])	0 (0)	0 (0)			
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			申請大学全体		
		24,829 ㎡	2,031 席		3,140,500 冊					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					申請大学全体		
		9,229 ㎡	弓道場、プール (25m×7コース)、陸上競技場 (400mトラック)、テニスコート (11面)、野球場 (1面)、相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場 (各1カ所)							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	国費による
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			該当なし							

既設大学等の状況	大学の名称	名古屋大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
	文学部 人文学科	4年	125人	3年次10人	520人	学士（文学）	1.06倍	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	教育学部 人間発達科学科	4	65	3年次10	280	学士（教育学）	1.10	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	法学部 法律・政治学科	4	150	3年次10	620	学士（法学）	1.05	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	経済学部 経済学科 経営学科 学部共通	4 4	140 65	3年次10	840 560 260 20	学士（経済学） 学士（経済学）	1.06	昭和24年度 昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
	情報文化学部 自然情報学科 社会システム情報学科 学部共通	4 4	— —	3年次10	— — 20	学士（情報文化学） 学士（情報文化学）	— —	平成5年度 平成5年度 平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
	情報学部 自然情報学科 人間・社会情報学科 コンピュータ科学科	4 4 4	38 38 59	— — —	135 38 38 59	学士（情報学） 学士（情報学） 学士（情報学）	1.02 1.02 1.11	平成29年度 平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	理学部 数理学科 物理学科 化学科 生命理学科 地球惑星科学科	4 4 4 4 4	55 90 50 50 25	— — — — —	1,080 220 360 200 200 100	学士（理学） 学士（理学） 学士（理学） 学士（理学） 学士（理学）	1.05	昭和24年度 平成7年度 昭和24年度 昭和24年度 平成8年度 平成4年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。
	医学部 医学科 保健学科	6 4	107 200	3年次5 3年次20 2年次6	1,520 662 858	学士（医学） 学士（看護学） 学士（保健学） 学士（リハビリテーション学）	1.01 1.04	昭和24年度 昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65 愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	3年次編入20人を含む。保健学科については、2年次編入18人及び3年次編入40人を含む。

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	工学部				—			昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度		平成29年度より学生募集停止
	物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度		平成29年度より学生募集停止
	電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度		平成29年度より学生募集停止
	機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度		平成29年度より学生募集停止
	環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度		平成29年度より学生募集停止
	化学生命工学科	4	99	—	99	学士（工学）	1.04	平成29年度		
	物理工学科	4	83	—	83	学士（工学）	1.04	平成29年度		
	マテリアル工学科	4	110	—	110	学士（工学）	0.99	平成29年度		
	電気電子情報工学科	4	118	—	118	学士（工学）	1.02	平成29年度		
	機械・航空宇宙工学科	4	150	—	150	学士（工学）	1.04	平成29年度		
	エネルギー理工学科	4	40	—	40	学士（工学）	0.95	平成29年度		
	環境土木・建築学科	4	80	—	80	学士（工学）	1.00	平成29年度		
	農学部				680				昭和26年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.07	平成18年度			
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.05	平成18年度			
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.06	平成18年度			
合計		2,107	3年次 75 2年次 6	6,375						
研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
文学研究科	年	人	年次人	人						
人文学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（文学）	—	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止	
（博士後期課程）	3	—	—	—	修士（歴史学） 博士（文学） 博士（歴史学）	—				
人文学研究科							平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町1		
人文学専攻 （博士前期課程）	2	104	—	104	修士（文学） 修士（歴史学）	1.03	平成29年度			
（博士後期課程）	3	61	—	61	修士（学術） 博士（文学） 修士（歴史学） 博士（学術）	0.86				

	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	教育発達科学研究科							昭和28年度 (平成12年度名称変更)	愛知県名古屋千種区不老町1	
	教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学)	0.67	平成12年度		
	(博士後期課程)	3	16	—	48	修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育)	0.99			
	心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学)	0.83	平成12年度		
	(博士後期課程)	3	15	—	45	修士(臨床心理学) 博士(心理学)	1.06			
	法学研究科							昭和28年度		
	綜合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学)	0.87	平成16年度		
	(博士後期課程)	3	17	—	51	修士(比較法学) 修士(現代法学) 博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.72			
	実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	170	法務博士 (専門職)	0.52	平成16年度		
	経済学研究科							昭和28年度	愛知県名古屋千種区不老町1	
	社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学)	0.84	平成12年度		
	(博士後期課程)	3	15	—	45	修士(経営管理学) 博士(経済学)	0.51			
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	1.25	平成12年度			
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.76				
情報学研究科							平成29年度	愛知県名古屋千種区不老町1		
数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	14	修士(情報学)	0.78	平成29年度			
(博士後期課程)	3	4	—	4	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	0.75				
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(情報学)	1.27	平成29年度			
(博士後期課程)	3	8	—	8	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	0.75				
社会情報学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(情報学)	0.88	平成29年度			
(博士後期課程)	3	5	—	5	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	0.80				
心理・認知科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	15	修士(情報学)	0.33	平成29年度			
(博士後期課程)	3	7	—	7	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	1.42				
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	32	修士(情報学)	0.96	平成29年度			
(博士後期課程)	3	9	—	9	修士(学術) 博士(情報学) 博士(学術)	0.66				

	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	知能システム学専攻 (博士前期課程)	2	29	—	29	修士(情報学)	1.13	平成29年度		
	(博士後期課程)	3	10	—	10	博士(情報学) 博士(学術)	0.60			
	理学研究科							昭和28年度 平成7年度	愛知県名古屋千種区不老町1	
	素粒子宇宙物理学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(理学)	1.08			
	(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(理学)	0.73			
	物質理学専攻 (博士前期課程)	2	63	—	126	修士(理学)	1.21	平成7年度		物質理学専攻 (博士後期課程) 平成28年度入学定員減(△1人)
	(博士後期課程)	3	22	—	67	博士(理学)	0.68			
	生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.03	平成8年度		生命理学専攻 (博士後期課程) 平成28年度入学定員減(△1人)
	(博士後期課程)	3	18	—	55	博士(理学)	0.30			
	名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	4	博士(理学)	0.25	平成28年度		
	医学系研究科							昭和30年度 (平成14年度名称変更)	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
	総合医学専攻 (博士課程)	4	153	—	628	博士(医学)	1.14	平成25年度		総合医学専攻 (博士課程) 平成27年度入学定員減(△4人) 平成29年度入学定員減(△4人)
	名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	12	博士(医学)	0.33	平成27年度		
	名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	4	博士(医学)	0.50	平成29年度		
	分子総合医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成12年度		平成25年度より学生募集停止
	細胞情報医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成11年度		平成25年度より学生募集停止
	機能構築医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成12年度		平成25年度より学生募集停止
	健康社会医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成10年度		平成25年度より学生募集停止
	医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	1.07	平成13年度		
	医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00			
看護学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(看護学)	0.86	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20		
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(看護学)	1.33				
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(医療技術学)	1.27	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20		
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(医療技術学)	0.56				

	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(リハビリテーション療法学)	1.40	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
	(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(リハビリテーション療法学)	1.50			
	工学研究科							昭和28年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度 (平成16年度再編)		平成29年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度 (平成16年度再編)		平成29年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度 (平成16年度再編)		平成29年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度 (平成16年度再編)		平成29年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
	マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度 (平成16年度再編)	平成29年度より学生募集停止		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度 (平成16年度再編)	平成29年度より学生募集停止		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				

既設 大学等 の 状 況	研究科等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地
		有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.23	平成29年度
	(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	1.00		
	応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.00	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.25		
	生命分子工学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	28	修士(工学)	1.07	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	6	—	6	博士(工学)	1.16		
	応用物理学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	39	修士(工学)	0.97	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.22		
	物質科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	39	修士(工学)	0.94	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.33		
	材料デザイン工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.08	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.00		
	物質プロセス工学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	35	修士(工学)	1.28	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.33		
	化学システム工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.14	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.12		
	電気工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	0.97	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.44		
	電子工学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	47	修士(工学)	1.19	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	13	—	13	博士(工学)	0.38		
	情報・通信工学専攻 (博士前期課程)	2	33	—	33	修士(工学)	1.33	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.62		
	機械システム工学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	66	修士(工学)	0.78	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	14	—	14	博士(工学)	0.35		
	マイクロ・ナノ機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(工学)	1.19	平成29年度	
	(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.75		

	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	38	—	38	修士(工学)	1.15	平成29年度		
	(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.62	平成29年度		
	エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(工学)	1.33			
	(博士後期課程)	3	5	—	5	博士(工学)	0.60	平成29年度		
	総合エネルギー工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(工学)	1.11			
	(博士後期課程)	3	4	—	4	博士(工学)	1.25	平成29年度		
	土木工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(工学)	0.88			
	(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.22			
	生命農学研究科							昭和30年度 (平成9年度 名称変更)	愛知県名古屋市千種区不老町1	生物圏資源学専攻 (博士後期課程) 平成26年度入学定員減(△1人)
	生物圏資源学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(農学)	1.12	平成11年度		
	(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(農学)	0.86	平成9年度		
	生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	37	—	74	修士(農学)	1.14			
	(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(農学)	0.54	平成10年度		
	応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(農学)	1.21			
(博士後期課程)	3	12	—	36	博士(農学)	0.44	平成16年度			
生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	56	修士(農学)	1.10				
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(農学)	1.14				
国際開発研究科							平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より 学生募集停止	
国際開発専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(国際開発学) 修士(学術)	1.22	平成3年度			
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(国際開発学) 博士(学術)	0.99	平成4年度			
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(国際開発学) 修士(学術)	1.20				
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(国際開発学) 博士(学術)	0.84	平成5年度			
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—				

	研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	多元数理科学研究科							平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
	多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.07	平成7年度		
	(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.39			
	国際言語文化研究科							平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止
	日本語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度		
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			
	国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度		
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			
	環境学研究科							平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	地球環境科学専攻 (博士前期課程) 平成29年度入学定員減(△1人) (博士後期課程) 平成29年度入学定員減(△1人) 社会環境学専攻 (博士前期課程) 平成29年度入学定員減(△9人) (博士後期課程) 平成29年度入学定員減(△5人)
	地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	107	修士(環境学) 修士(理学)	0.89	平成13年度		
	(博士後期課程)	3	24	—	74	博士(環境学) 博士(理学)	0.42			
	都市環境学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学) 修士(工学)	1.31	平成13年度		
	(博士後期課程)	3	21	—	63	修士(建築学) 博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.47			
	社会環境学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	63	修士(環境学) 修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学)	1.00	平成13年度		
	(博士後期課程)	3	13	—	49	修士(経済学) 博士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.58			
情報科学研究科							平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止	
計算機数理科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—				
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—				

既設 大学等 の 状 況	研究科等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地	
	メディア科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (情報科学)	—	平成15年度		
	(博士後期課程)	3	—	—	—	修士 (工学) 修士 (学術) 博士 (情報科学) 博士 (工学) 博士 (学術)	—			
	複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (情報科学) 修士 (工学) 修士 (学術)	—	平成15年度		
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (情報科学) 博士 (工学) 博士 (学術)	—			
	社会システム情報学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (情報科学) 修士 (工学) 修士 (学術)	—	平成15年度		
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (情報科学) 博士 (工学) 博士 (学術)	—			
	創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	59	修士 (創薬科学)	1.05	平成24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	基盤創薬学専攻 (博士前期課程) 平成29年定員増 (5人)
	(博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (創薬科学)	0.80	平成26年度		
	合計									
博士前期課程		1,592	—	2,338						
博士後期課程		574	—	1,222						
博士課程		161	—	644						
修士課程		30	—	50						
専門職学位課程		50	—	170						

	名 称	目 的	所在地	設置年月	規模等 (延面積)
附属施設の概要	環境医学研究所	教育・研究	愛知県名古屋市千種区不老町1	昭和21年3月	7,397㎡
	アイソトープ総合センター			昭和51年5月	2,130㎡
	遺伝子実験施設			昭和59年4月	1,953㎡
	国際教育交流センター・国際言語センター			平成23年4月	2,727㎡
	物質科学国際研究センター			平成10年4月	8,057㎡
	高等教育研究センター			平成10年4月	405㎡
	農学国際教育協力研究センター			平成11年4月	510㎡
	博物館			平成12年4月	2,812㎡
	心の発達支援研究実践センター			平成27年4月	38㎡
	法政国際教育協力研究センター			平成14年4月	2,149㎡
	生物機能開発利用研究センター			平成15年4月	2,619㎡
	未来材料・システム研究所			平成27年10月	11,276㎡
	シンクロトロン光研究センター			平成19年4月	502㎡
	基礎理論研究センター			平成22年4月	1,173㎡
	現象解析研究センター			平成22年4月	
	未来社会創造機構			平成26年4月	6,118㎡
	減災連携研究センター			平成24年1月	2,720㎡
	細胞生理学研究センター			平成24年4月	738㎡
	ナショナルコンポジットセンター			平成26年1月	1,987㎡
	予防早期医療創成センター			平成27年7月	585㎡
	宇宙地球環境研究所			平成27年10月	10,634㎡
	トランスフォーメティブ生命分子研究所			平成25年4月	7,109㎡
総合保健体育科学センター	昭和50年4月	1,993㎡			

附属施設の概要	名 称	目 的	所在地	設置年月	規模等 (延面積)
	脳とこころの研究センター	教育・研究	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	平成25年12月	267m ²
	神経疾患・腫瘍分子医療研究センター			平成15年4月	634m ²
	医学教育研究支援センター			平成16年5月	6,033m ²
	学生相談総合センター	教育研究・管理運営支援	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成13年4月	670m ²
	情報基盤センター	研究，教育等に係る情報化を推進するための実践的調査研究及び情報技術支援		平成21年4月	5,126m ²
	医学部附属病院	医学の研究，教育及び診療	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	昭和24年5月	89,519m ²

国立大学法人名古屋大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
名古屋大学				名古屋大学				
文学部				文学部				
人文学科	125	(10)	520	人文学科	125	(10)	520	
教育学部				教育学部				
人間発達科学科	65	(10)	280	人間発達科学科	65	(10)	280	
法学部				法学部				
法律・政治学科	150	(10)	620	法律・政治学科	150	(10)	620	
経済学部				経済学部				
経済学科	140		560	経済学科	140		560	
経営学科	65		260	経営学科	65		260	
(学部共通)		[10]	20	(学部共通)		[10]	20	
情報学部				情報学部				
自然情報学科	38	[4]	160	自然情報学科	38	[4]	160	
人間・社会情報学科	38	[4]	160	人間・社会情報学科	38	[4]	160	
コンピュータ科学科	59	[2]	240	コンピュータ科学科	59	[2]	240	
理学部				理学部				
数理学科	55		220	数理学科	55		220	
物理学科	90		360	物理学科	90		360	
化学科	50		200	化学科	50		200	
生命理学科	50		200	生命理学科	50		200	
地球惑星科学科	25		100	地球惑星科学科	25		100	
医学部				医学部				
医学科	107	(5)	662	医学科	107	(5)	662	
保健学科看護学専攻	80	(10)	340	保健学科看護学専攻	80	(10)	340	
保健学科放射線技術科学専攻	40	(5)	170	保健学科放射線技術科学専攻	40	(5)	170	
保健学科検査技術科学専攻	40	(5)	170	保健学科検査技術科学専攻	40	(5)	170	
保健学科理学療法学専攻	20	《3》	89	保健学科理学療法学専攻	20	《3》	89	
保健学科作業療法学専攻	20	《3》	89	保健学科作業療法学専攻	20	《3》	89	
工学部				工学部				
化学生命工学科	99		396	化学生命工学科	99		396	
物理工学科	83		332	物理工学科	83		332	
マテリアル工学科	110		440	マテリアル工学科	110		440	
電気電子情報工学科	118		472	電気電子情報工学科	118		472	
機械・航空宇宙工学科	150		600	機械・航空宇宙工学科	150		600	
エネルギー理工学科	40		160	エネルギー理工学科	40		160	
環境土木・建築学科	80		320	環境土木・建築学科	80		320	
農学部				農学部				
生物環境科学科	35		140	生物環境科学科	35		140	
資源生物科学科	55		220	資源生物科学科	55		220	
応用生命科学科	80		320	応用生命科学科	80		320	
計	2107	81	8820	計	2107	81	8820	

()は第3年次編入学定員で外数
 []は学部共通の第3年次編入学定員で外数
 《 》は第2年次編入学定員で外数

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
名古屋大学大学院			
人文学研究科			
人文学専攻	M	104	208
〃	D	61	183
教育発達科学研究科			
教育科学専攻	M	32	64
〃	D	16	48
心理発達科学専攻	M	22	44
〃	D	15	45
法学研究科			
総合法政専攻	M	35	70
〃	D	17	51
実務法曹養成専攻	P	50	150
経済学研究科			
社会経済システム専攻	M	30	60
〃	D	15	45
産業経営システム専攻	M	14	28
〃	D	7	21
情報学研究科			
数理情報学専攻	M	14	28
〃	D	4	12
複雑系科学専攻	M	36	72
〃	D	8	24
社会情報学専攻	M	18	36
〃	D	5	15
心理・認知科学専攻	M	15	30
〃	D	7	21
情報システム学専攻	M	32	64
〃	D	9	27
知能システム学専攻	M	29	58
〃	D	10	30
理学研究科			
素粒子宇宙物理学専攻	M	66	132
〃	D	30	90
物質理学専攻	M	63	126
〃	D	22	66
生命理学専攻	M	42	84
〃	D	18	54
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻	D	2	6
医学系研究科			
総合医学専攻	D	153	612
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻	D	4	16
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻	D	4	16
医科学専攻	M	20	40
(医療行政コース)	M	10	10
看護学専攻	M	18	36
〃	D	6	18
医療技術学専攻	M	20	40
〃	D	7	21
リハビリテーション療法学専攻	M	10	20
〃	D	4	12
工学研究科			
有機・高分子化学専攻	M	34	68
〃	D	8	24
応用物質化学専攻	M	34	68
〃	D	8	24
生命分子工学専攻	M	28	56
〃	D	6	18
応用物理学専攻	M	39	78
〃	D	9	27
物質科学専攻	M	39	78
〃	D	9	27
材料デザイン工学専攻	M	34	68
〃	D	8	24
物質プロセス工学専攻	M	35	70
〃	D	9	27

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
名古屋大学大学院				
人文学研究科				
人文学専攻	M	104	208	
〃	D	61	183	
教育発達科学研究科				
教育科学専攻	M	32	64	
〃	D	16	48	
心理発達科学専攻	M	22	44	
〃	D	15	45	
法学研究科				
総合法政専攻	M	35	70	
〃	D	17	51	
実務法曹養成専攻	P	50	150	
経済学研究科				
社会経済システム専攻	M	30	60	
〃	D	15	45	
産業経営システム専攻	M	14	28	
〃	D	7	21	
情報学研究科				
数理情報学専攻	M	14	28	
〃	D	4	12	
複雑系科学専攻	M	36	72	
〃	D	8	24	
社会情報学専攻	M	18	36	
〃	D	5	15	
心理・認知科学専攻	M	15	30	
〃	D	7	21	
情報システム学専攻	M	32	64	
〃	D	9	27	
知能システム学専攻	M	29	58	
〃	D	10	30	
理学研究科				
素粒子宇宙物理学専攻	M	66	132	
〃	D	30	90	
物質理学専攻	M	63	126	
〃	D	22	66	
生命理学専攻	M	42	84	
〃	D	18	54	
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻	D	2	6	
医学系研究科				
総合医学専攻	D	153	612	
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻	D	4	16	
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻	D	4	16	
医科学専攻	M	20	40	
(医療行政コース)	M	10	10	
看護学専攻	M	18	36	
〃	D	6	18	
医療技術学専攻	M	20	40	
〃	D	7	21	
リハビリテーション療法学専攻	M	10	20	
〃	D	4	12	
工学研究科				
有機・高分子化学専攻	M	34	68	
〃	D	8	24	
応用物質化学専攻	M	34	68	
〃	D	8	24	
生命分子工学専攻	M	28	56	
〃	D	6	18	
応用物理学専攻	M	39	78	
〃	D	9	27	
物質科学専攻	M	39	78	
〃	D	9	27	
材料デザイン工学専攻	M	34	68	
〃	D	8	24	
物質プロセス工学専攻	M	35	70	
〃	D	9	27	

平成29年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員
化学システム工学専攻	M	34		68
〃	D	8		24
電気工学専攻	M	34		68
〃	D	9		27
電子工学専攻	M	47		94
〃	D	13		39
情報・通信工学専攻	M	33		66
〃	D	8		24
機械システム工学専攻	M	66		132
〃	D	14		42
マイクロ・ナノ機械理工学専攻	M	36		72
〃	D	8		24
航空宇宙工学専攻	M	38		76
〃	D	8		24
エネルギー理工学専攻	M	18		36
〃	D	5		15
総合エネルギー工学専攻	M	18		36
〃	D	4		12
土木工学専攻	M	36		72
〃	D	9		27
生命農学研究科				
生物圏資源学専攻	M	35		70
〃	D	10		30
生物機構・機能科学専攻	M	37		74
〃	D	11		33
応用分子生命科学専攻	M	39		78
〃	D	12		36
生命技術科学専攻	M	28		56
〃	D	9		27
国際開発研究科				
国際開発専攻	M	22		44
〃	D	11		33
国際協力専攻	M	22		44
〃	D	11		33
多元数理科学研究科				
多元数理科学専攻	M	47		94
〃	D	30		90
環境学研究科				
地球環境科学専攻	M	53		106
〃	D	24		72
都市環境学専攻	M	47		94
〃	D	21		63
社会環境学専攻	M	27		54
〃	D	13		39
創薬科学研究科				
基盤創薬学専攻	M	32		64
〃	D	10		30
計		2401		5732

平成30年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
化学システム工学専攻	M	34		68	
〃	D	8		24	
電気工学専攻	M	34		68	
〃	D	9		27	
電子工学専攻	M	47		94	
〃	D	13		39	
情報・通信工学専攻	M	33		66	
〃	D	8		24	
機械システム工学専攻	M	66		132	
〃	D	14		42	
マイクロ・ナノ機械理工学専攻	M	36		72	
〃	D	8		24	
航空宇宙工学専攻	M	38		76	
〃	D	8		24	
エネルギー理工学専攻	M	18		36	
〃	D	5		15	
総合エネルギー工学専攻	M	18		36	
〃	D	4		12	
土木工学専攻	M	36		72	
〃	D	9		27	
生命農学研究科					
		0		0	平成30年4月学生募集停止
		0		0	平成30年4月学生募集停止
		0		0	平成30年4月学生募集停止
		0		0	平成30年4月学生募集停止
		0		0	平成30年4月学生募集停止
		0		0	平成30年4月学生募集停止
		0		0	平成30年4月学生募集停止
		0		0	平成30年4月学生募集停止
森林・環境資源科学専攻	M	27		54	専攻の設置(事前伺い)
〃	D	7		21	専攻の設置(事前伺い)
植物生産科学専攻	M	30		60	専攻の設置(事前伺い)
〃	D	9		27	専攻の設置(事前伺い)
動物科学専攻	M	28		56	専攻の設置(事前伺い)
〃	D	7		21	専攻の設置(事前伺い)
応用生命科学専攻	M	66		132	専攻の設置(事前伺い)
〃	D	17		51	専攻の設置(事前伺い)
<small>名古屋大学・カザサート大学国際連携生命科学専攻</small>	D	2		6	専攻の設置(意見伺い)
国際開発研究科					
		0		0	平成30年4月学生募集停止
		0		0	平成30年4月学生募集停止
		0		0	平成30年4月学生募集停止
		0		0	平成30年4月学生募集停止
国際開発協力専攻	M	44		88	専攻の設置(事前伺い)
〃	D	22		66	専攻の設置(事前伺い)
多元数理科学研究科					
多元数理科学専攻	M	47		94	
〃	D	30		90	
環境学研究科					
地球環境科学専攻	M	53		106	
〃	D	24		72	
都市環境学専攻	M	47		94	
〃	D	21		63	
社会環境学専攻	M	27		54	
〃	D	13		39	
創薬科学研究科					
基盤創薬学専攻	M	32		64	
〃	D	10		30	
計		2413		5756	

Mは修士課程, 博士課程前期課程
Dは博士課程, 博士課程後期課程
Pは専門職学位課程

教育課程等の概要（国際連携学科等）

（生命農学研究科 名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻）

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考						
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学						合計					
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員			助手に相当する教員	小計			
専門科目	博士論文研究ⅠA		1前	名古屋大学	4					○	48	44	14	26	0	132									132		
	博士論文研究ⅡA		1後	名古屋大学	10					○	48	44	14	26	0	132										132	
	博士論文研究ⅢA		2前	名古屋大学	10					○	48	44	14	26	0	132										132	
	博士論文研究ⅣA		2後	名古屋大学	10					○	48	44	14	26	0	132										132	
	博士論文研究ⅤA		3前	名古屋大学	10					○	48	44	14	26	0	132										132	
	博士論文研究ⅥA		3後	名古屋大学	4					○	48	44	14	26	0	132										132	
	小計（6科目）		—			48	0	0		—	48	44	14	26	0	132	0	0	0	0	0	0	0	0	132		
	博士論文研究ⅠB		1前	カセサート大学	4	—	—			○							1	24	4	0	0	0	0	29	29		
	博士論文研究ⅡB		1後	カセサート大学	10	—	—			○							1	24	4	0	0	0	0	29	29		
	博士論文研究ⅢB		2前	カセサート大学	10	—	—			○							1	24	4	0	0	0	0	29	29		
	博士論文研究ⅣB		2後	カセサート大学	10	—	—			○							1	24	4	0	0	0	0	29	29		
	博士論文研究ⅤB		3前	カセサート大学	10	—	—			○							1	24	4	0	0	0	0	29	29		
	博士論文研究ⅥB		3後	カセサート大学	4	—	—			○							1	24	4	0	0	0	0	29	29		
	小計（6科目）		—			48	0	0		—	0	0	0	0	0	0	1	24	4	0	0	0	0	29	29		
研究指導			1-3通	名古屋大学・カセサート大学					—	48	44	14	26	0	132	1	24	4	0	0	0	0	29	161			
合計（12科目）			—		48	0	0		—	48	44	14	26	0	132	1	24	4	0	0	0	0	29	161			
学位又は称号	博士（農学）(Doctor of Philosophy(Agricultural Sciences))			学位又は学科の分野			農学関係																				
卒業要件及び履修方法	開設大学等			開設単位数（必修）			授業期間等																				
原則として3年以上在籍し、主大学開講科目から28単位、副大学開講科目から20単位、合計48単位を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。なお、博士論文は査読制度のある国際学術誌に投稿し、受理された後、原則として印刷公表されたものでなければならない。	名古屋大学			48			1学年の学期区分			2学期																	
	カセサート大学			48			1学期の授業期間			15週																	
							1時限の授業時間			90分																	

（注）
 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号（その2の1）に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目

については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。

- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要（国際連携学科等）

（生命農学研究科 名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻）（名古屋大学）

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考						
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学						合計					
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当する教員	准教授に相当する教員	講師に相当する教員	助教に相当する教員			助手に相当する教員	小計			
専門科目	博士論文研究ⅠA		1前	名古屋大学	4					○	48	44	14	26	0	132									132		
	博士論文研究ⅡA		1後	名古屋大学	10					○	48	44	14	26	0	132										132	
	博士論文研究ⅢA		2前	名古屋大学	10					○	48	44	14	26	0	132										132	
	博士論文研究ⅣA		2後	名古屋大学	10					○	48	44	14	26	0	132										132	
	博士論文研究ⅤA		3前	名古屋大学	10					○	48	44	14	26	0	132										132	
	博士論文研究ⅥA		3後	名古屋大学	4					○	48	44	14	26	0	132										132	
	小計（6科目）		—			48	0	0		—	48	44	14	26	0	132	0	0	0	0	0	0	0	0	132		
研究指導			1-3通	名古屋大学	—			—			48	44	14	26	0	132									132		
合計（6科目）			—		48	0	0		—	48	44	14	26	0	132	0	0	0	0	0	0	0	0	132			
学位又は称号	博士（農学）(Doctor of Philosophy(Agricultural Sciences))			学位又は学科の分野			農学関係																				
卒業要件及び履修方法				開設大学等			開設単位数（必修）			授業期間等																	
原則として3年以上在籍し、主大学開講科目から28単位、副大学開講科目から20単位、合計48単位を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。なお、博士論文は査読制度のある国際学術誌に投稿し、受理された後、原則として印刷公表されたものでなければならない。				名古屋大学			48			1学年の学期区分					2学期												
										1学期の授業期間					15週												
										1時限の授業時間					90分												

- (注)
- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号（その2の1）に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
 - 2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要（国際連携学科等）

（生命農学研究科 名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻）（カセサート大学）

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			教員等の配置										備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	申請大学					連携外国大学							
											教授	准教授	講師	助教	助手	小計	教授に相当員	准教授に相当員	講師に相当員	助教に相当員		助手に相当員	小計
専門科目	博士論文研究ⅠB		1前	カセサート大学	4	—	—			○							1	24	4	0	0	29	29
	博士論文研究ⅡB		1後	カセサート大学	10	—	—			○							1	24	4	0	0	29	29
	博士論文研究ⅢB		2前	カセサート大学	10	—	—			○							1	24	4	0	0	29	29
	博士論文研究ⅣB		2後	カセサート大学	10	—	—			○							1	24	4	0	0	29	29
	博士論文研究ⅤB		3前	カセサート大学	10	—	—			○							1	24	4	0	0	29	29
	博士論文研究ⅥB		3後	カセサート大学	4	—	—			○							1	24	4	0	0	29	29
	小計（6科目）		—			48	0	0		—							1	24	4	0	0	29	29
研究指導			1-3通	カセサート大学					—								1	24	4	0	0	29	29
合計（6科目）			—		48	0	0		—								1	24	4	0	0	29	29
学位又は称号	博士（農学）(Doctor of Philosophy(Agricultural Sciences))			学位又は学科の分野			農学関係																
卒業要件及び履修方法				開設大学等			開設単位数（必修）			授業期間等													
原則として3年以上在籍し、主大学開講科目から28単位、副大学開講科目から20単位、合計48単位を修得し、かつ、研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することを要件とする。なお、博士論文は査読制度のある国際学術誌に投稿し、受理された後、原則として印刷公表されたものでなければならない。										1学年の学期区分					2学期								
				カセサート大学			48			1学期の授業期間					15週								
										1時限の授業時間					90分								

- (注)
- 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号（その2の1）に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
 - 私立の大学若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(生命農学研究科 生物圏資源学専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	研究指導	1-3通	-			-			12	9	2	8	0	
	合計（1科目）	-	0	0	0	-			12	9	2	8	0	
学位又は称号		博士（農学）		学位又は学科の分野			農学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
標準修業年限以上在学し、必要な研究指導を受け、博士論文の審査に合格することを修了要件とする。							1学年の学期区分					-		
							1学期の授業期間					-		
							1時限の授業時間					-		

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(生命農学研究科 生物機構・機能科学専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	研究指導	1-3通	-			-			12	10	3	12	0	
	合計(1科目)	-	0	0	0	-			12	10	3	12	0	
学位又は称号		博士(農学)		学位又は学科の分野			農学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
標準修業年限以上在学し、必要な研究指導を受け、博士論文の審査に合格することを修了要件とする。							1学年の学期区分					-		
							1学期の授業期間					-		
							1時限の授業時間					-		

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(生命農学研究科 応用分子生命科学専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	研究指導	1-3通	-			-			9	11	1	9	0	
合計(1科目)		-	0	0	0	-			9	11	1	9	0	
学位又は称号		博士(農学)			学位又は学科の分野			農学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
標準修業年限以上在学し、必要な研究指導を受け、博士論文の審査に合格することを修了要件とする。							1学年の学期区分					-		
							1学期の授業期間					-		
							1時限の授業時間					-		

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(生命農学研究科 生命技術科学専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	研究指導	1-3通	-			-			4	5	2	7	0	
	合計(1科目)	-	0	0	0	-			4	5	2	7	0	
学位又は称号		博士(農学)		学位又は学科の分野			農学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
標準修業年限以上在学し、必要な研究指導を受け、博士論文の審査に合格することを修了要件とする。						1学年の学期区分				-				
						1学期の授業期間				-				
						1時限の授業時間				-				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授業科目の概要(国際連携学科等)

(生命農学研究科 名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻)

科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	名古屋大学	博士論文研究ⅠA	専門分野における過去の知見を集約し、これまでの研究の背景を総括するとともに、研究課題の意義、目標についてとりまとめ、研究計画を作成する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅡA	主大学における研究遂行に必要な実験技術・解析手法を習得し、課題を遂行する。得られたデータを分析し、成果を取りまとめる。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅢA	副大学における研究遂行に必要な実験技術・解析手法を習得し、課題を遂行する。専門分野における外国語でのコミュニケーション、プレゼンテーションのスキルを習得する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅣA	副大学での研究で得られたデータを分析し、成果を取りまとめて英文で報告書を作成する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅤA	主大学における研究課題を遂行し、主大学、副大学における研究成果を総合的に解析する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅥA	得られた知見を総括し、専門分野における研究意義を取りまとめる。	
	カセサート大学	博士論文研究ⅠB	専門分野における過去の知見を集約し、これまでの研究の背景を総括するとともに、研究課題の意義、目標についてとりまとめ、研究計画を作成する。	
	カセサート大学	博士論文研究ⅡB	主大学における研究遂行に必要な実験技術・解析手法を習得し、課題を遂行する。得られたデータを分析し、成果を取りまとめる。	
	カセサート大学	博士論文研究ⅢB	副大学における研究遂行に必要な実験技術・解析手法を習得し、課題を遂行する。専門分野における外国語でのコミュニケーション、プレゼンテーションのスキルを習得する。	
	カセサート大学	博士論文研究ⅣB	副大学での研究で得られたデータを分析し、成果を取りまとめて英文で報告書を作成する。	
	カセサート大学	博士論文研究ⅤB	主大学における研究課題を遂行し、主大学、副大学における研究成果を総合的に解析する。	
	カセサート大学	博士論文研究ⅥB	得られた知見を総括し、専門分野における研究意義を取りまとめる。	
	名古屋大学	研究指導	(1 北野 英己) 有用農業形質についての資源保存及び形態形質に関する分子遺伝学的研究に関する研究指導を行う。 (2 松岡 信) 高等植物の形態形成、器官形成、植物ホルモンの信号伝達に関する生理学的・分子生物学的研究、及びそれを活用した分子育種学的研究に関する研究指導を行う。	

(3 芦莉 基行)

高等植物における環境適応と生存戦略に関する分子生物学的研究に関する研究指導を行う。

(4 北島 健)

受精, 発生, 神経機能, 免疫現象における細胞表面糖鎖が関与する細胞間相互作用と情報伝達に関する研究指導を行う。

(5 服部 束穂)

高等植物の成長・分化制御とその環境情報応答に関する研究指導を行う。

(6 北 将樹)

生物現象を司る天然物の単離、構造決定、合成、作用機序に関する研究。哺乳動物由来の麻痺性神経毒や、海洋生物の共生現象鍵物質に関する研究。蛍光プローブを用いた新たな標的分子の解析法の開発に関する研究指導を行う。

(7 一柳 健司)

脊椎動物におけるトランスポゾンや遺伝子のエピジェネティック制御機構の研究。生殖細胞形成期のエピゲノム制御機構の研究。種間および種内でのエピゲノムやゲノムの比較解析を通じた、ゲノムとエピゲノムの相互作用に関する研究指導を行う。

(8 堀尾 文彦)

代謝性疾患（2型糖尿病など）の原因遺伝子と栄養学的制御因子の解明。ビタミンCの新たな生理機能の探求。鳥類卵胞における物質輸送機構の解明（主に抗体輸送を中心にして）。穀物飼料資源の生理的機能性の探求に関する研究指導を行う。

(9 下村 吉治)

栄養素（主にタンパク質・アミノ酸）による酵素および遺伝子発現の制御機構。3次元培養による肝臓特異的遺伝子発現の制御機構に関する研究。肝臓の概日リズムのメカニズムと時間栄養学。分岐鎖アミノ酸の代謝と生理機能に関する研究指導を行う。

(10 牧 正敏)

動物細胞の成長・分化・細胞死における情報伝達や細胞内輸送、小胞体を経由しない細胞外分泌、遺伝子発現制御に関する生化学的および分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(11 松田 幹)

高等動植物における蛋白質、核酸や複合糖質の生合成と生体内での動態、および免疫、受精・発生、細胞増殖・分化などにおける作用機構の生化学・分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(12 吉村 徹)

ピリドキサル酵素やフラビン酵素の構造機能相関。D-アミノ酸の生理作用と代謝関連酵素に関する研究。古細菌の脂質合成に関する研究。環境微生物からの有用遺伝子スクリーニング技術の開発に関する研究指導を行う。

(13 青井 啓悟)

糖鎖高分子, 生物機能高分子, 生分解性高分子, 植物由来高分子およびこれらを活用した医用高分子の設計, 精密合成, 機能発現に関する研究。生物的機能を有するバイオマテリアルの創出に関する研究指導を行う。

(14 小鹿 一)

植物、微生物、海洋生物などが生産する生理活性天然物質の同定、作用機構、生合成、受容体に関する研究指導を行う。

(15 西川 俊夫)

特異な化学構造と生物活性を示す天然有機化合物の生物有機化学的研究：新しい有機合成反応・合成方法論の開発, 天然有機化合物の全合成研究と生物機能の解析・制御に関する研究指導を行う。

(16 前島 正義)

膜輸送システムと生体膜情報変換システムの分子構造・作動機構・細胞特異性および生理機能に関する研究指導を行う。

(17 浅川 晋)

水田生態系各部位に生息する生物群集の構造・特性と機能および生物間の相互作用に関する研究に関する研究指導を行う。

(18 川北 一人)

植物病原菌の感染に対する植物の生体防御機構に関する生理学, 生化学および分子生物学的研究。生物防除法の開発とその作用機作の解明を目指した研究に関する研究指導を行う。

(19 中園 幹生)

栽培植物の系統分化, 形態形成, 遺伝子発現および新機能開発に関する発育遺伝育種学的並びに生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(20 松本 省吾)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に、花器官の形成、開花、花色に関する生理、また、果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(21 池田 素子)

昆虫ウイルスの増殖機構とウイルスと宿主昆虫との相互作用, 昆虫の抗ウイルス応答機構についての研究に関する研究指導を行う。

(22 本道 栄一)

哺乳類および鳥類の神経統御と生殖制御に関する器官を中心とした生体構造の機能形態学的研究に関する研究指導。

(23 山本 直之)

水産動物の神経系、感覚器、運動器に関する形態学的、生理・生態学的、進化的行動学的研究、ならびにペプチドニューロンによる感覚・神経系～行動の持続的制御に関する神経生理学的研究に関する研究指導を行う。

(24 榑原 均)

栄養などの環境変化に応答した植物の器官分化・成長調節機構について、特に植物ホルモン作用の果たす役割に焦点を当て、生化学的、分子遺伝学的な手法による研究指導を行う。

(25 小俣 達男)

光合成生物におけるCO₂・N₂O-の同化とクロロフィル合成の制御機構を遺伝子・タンパク質レベルの研究に関する研究指導を行う。

(26 小林 哲夫)

真核生物の情報伝達と遺伝子発現制御機構について、主としてカビを材料として分子遺伝学的、化学遺伝学的な面から解析に関する研究指導を行う。

(27 藤田 祐一)

クロロフィル合成・窒素固定・概日リズム・ホルモン情報伝達の調節機構に関する研究を、主としてシアノバクテリア・植物を材料として、生化学的、細胞分子生物学的、分子遺伝学的観点からの研究指導を行う。

(28 森田 (寺尾) 美代)

植物における環境変化の感知と応答の分子機構について、重力屈性を中心に分子遺伝学・細胞生物学・生理学的研究に関する研究指導を行う。

(29 近藤 始彦)

作物生産の生理・生態学的解析，とくに環境応答・資源獲得に関する研究指導を行う。

(30 竹中 千里)

個体レベルの樹木生理学的メカニズムの解明から地理情報システム及びリモートセンシング技術を用いた広域的な資源評価まで，幅広い視点からの環境変化が森林生態系に与える影響に関する研究指導を行う。

(31 谷口 光隆)

資源植物の構造と機能およびその環境応答機構に関する超微形態学的・生化学的・分子生物学的研究指導を行う。

(32 戸丸 信弘)

森林群集・樹木個体群の構造と動態、多様性、繁殖生態、生理生態、物質生産に関する生態学、集団遺伝学、分子生態学、生理生態学の研究に関する研究指導を行う。

(33 山内 章)

水ストレス、塩ストレス耐性などに関わる生理・分子機構の解明、緑化による環境制御に関する研究指導を行う。

(34 渡邊 彰)

土壌圏を中心とした環境中における炭素，窒素，微量元素の動態に関する研究，腐植物質の化学に関する研究指導を行う。

(35 土川 寛)

生物資源を対象とした計測システムおよび精密機械プロセスに関する研究指導を行う。

(36 福島 和彦)

木質化の生化学，抽出成分の化学，リグニンの化学，リグニン機能性物質の調製，製紙科学，セルロースの化学に関する研究指導を行う。

(37 山本 浩之)

樹木の成長過程と成長応力及び材質発現機構，熱帯造林樹種の成長と木部成熟特性，木質形成の分子生物学，生物材料の水分・熱および力学特性に関する研究指導を行う。

(38 太田 岳史)

生物圏における水・エネルギー・炭素循環の解明，森林構造と気象環境の関係および生物群集と自然災害に関する研究指導を行う。

(39 原田 一宏)

途上国の熱帯林保全と地域住民の生計向上をめざした森林管理政策、地域住民を対象とした森林認証制度、参加型森林管理及び、国内の木材収穫技術、森林作業の人間工学的解明、森林利用と環境保全の両立、及び持続可能な森林管理技術に関する研究指導を行う。

(40 東村 博子)

生殖機能の制御メカニズムに関する神経内分泌学的基础研究とそのメカニズムを利用した畜産や創薬への応用研究に関する研究指導を行う。

(41 中野 秀雄)

新規な生物機能分子，生物反応プロセス，解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(42 森 仁志)

高等植物の生長，分化における形質発現に関する生化学的・分子生物学的研究に関する研究指導を行う。

(43 柘植 尚志)

植物生産にかかわる微生物の機能とその制御に関する研究指導を行う。

(44 肘井 直樹)

森林や里山など緑域環境における生物群集の存在様式や生物間相互作用，生態系保全に関する研究指導を行う。

(45 大蔵 聡)

反芻家畜の生理機能の調節機序に関する基礎研究とその機能を利用した動物生産にかかわる応用研究に関する研究指導を行う。

(46 松田 洋一)

動物の様々な遺伝現象の分子基盤とゲノム・染色体進化の研究，動物遺伝資源の評価と保全・利用，ヒト疾患および生物機能研究用モデル実験動物の開発・育成，量的形質の遺伝子支配の解明に関する研究指導を行う。

(47 江原 宏)

開発途上国の作物生産にかかわる課題解決および技術開発に関する研究指導を行う。

(48 吉村 崇)

脊椎動物（哺乳類、鳥類、魚類）の季節適応機構と概日時計機構の解明。季節繁殖や概日時計の制御を通じた動物生産性の向上とヒトの健康の増進に関する研究。ニワトリにおける成長制御と成長因子発現調節に関わる研究指導を行う。

(49 佐塚 隆志)

高等植物の形態形成、器官形成、植物ホルモンの信号伝達に関する生理学的・分子生物学的研究、及びそれを活用した分子育種学的研究に関する研究指導を行う。

(50 上口 智治)

高等植物の成長・分化制御とその環境情報応答に関する研究指導を行う。

(51 佐藤 ちひろ)

受精，発生，神経機能，免疫現象における細胞表面糖鎖が関与する細胞間相互作用と情報伝達に関する研究指導を行う。

(52 武田 真)

高等植物の成長・分化制御とその環境情報応答に関する研究指導を行う。

(53 大川 妙子)

脊椎動物（哺乳類、鳥類、魚類）の季節適応機構と概日時計機構の解明。季節繁殖や概日時計の制御を通じた動物生産性の向上とヒトの健康の増進に関する研究。ニワトリにおける成長制御と成長因子発現調節に関わる研究指導を行う。

(54 石川 明)

動物の様々な遺伝現象の分子基盤とゲノム・染色体進化の研究，動物遺伝資源の評価と保全・利用，ヒト疾患および生物機能研究用モデル実験動物の開発・育成，量的形質の遺伝子支配の解明に関する研究指導を行う。

(55 村井 篤嗣)

代謝性疾患（2型糖尿病など）の原因遺伝子と栄養学的制御因子の解明。ビタミンCの新たな生理機能の探求。鳥類卵胞における物質輸送機構の解明（主に抗体輸送を中心にして）。穀物飼料資源の生理的機能性の探求に関する研究指導を行う。

(56 小田 裕昭)

栄養素（主にタンパク質・アミノ酸）による酵素および遺伝子発現の制御機構。3次元培養による肝臓特異的遺伝子発現の制御機構に関する研究。肝臓の概日リズムのメカニズムと時間栄養学。分岐鎖アミノ酸の代謝と生理機能に関する研究指導を行う。

(57 柴田 秀樹)

動物細胞の成長・分化・細胞死における情報伝達や細胞内輸送、小胞体を経由しない細胞外分泌、遺伝子発現制御に関する生化学的および分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(58 灘野 大太)

高等動植物における蛋白質、核酸や複合糖質の生合成と生体内での動態、および免疫、受精・発生、細胞増殖・分化などにおける作用機構の生化学・分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(59 邊見 久)

ピリドキサル酵素やフラビン酵素の構造機能相関。D-アミノ酸の生理作用と代謝関連酵素に関する研究。古細菌の脂質合成に関する研究。環境微生物からの有用遺伝子スクリーニング技術の開発に関する研究指導を行う。

(60 柴田 貴広)

食と健康をキーワードとした基礎研究、特に生活習慣病に関連した内因性因子としての酸化ストレス、及び外因性環境因子としての機能性食品に関する研究指導を行う。

(61 中川 優)

植物、微生物、海洋生物などが生産する生理活性天然物質の同定、作用機構、生合成、受容体に関する研究指導を行う。

(62 中崎 敦夫)

特異な化学構造と生物活性を示す天然有機化合物の生物有機化学的研究：新しい有機合成反応・合成方法論の開発、天然有機化合物の全合成研究と生物機能の解析・制御に関する研究指導を行う。

(63 野村 信嘉)

糖鎖高分子、生物機能高分子、生分解性高分子、植物由来高分子およびこれらを活用した医用高分子の設計、精密合成、機能発現に関する研究。生物的機能を有するバイオマテリアルの創出に関する研究指導を行う。

(64 吉岡 博文)

植物-病原菌相関で誘導される植物免疫の分子機構に関する研究指導を行う。

(65 白武 勝裕)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に、花器官の形成、開花、花色に関する生理、また、果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(66 竹本 大吾)

植物病原菌の感染に対する植物の生体防御機構に関する生理学、生化学および分子生物学的研究。生物防除法の開発とその作用機作の解明を目指した研究に関する研究指導を行う。

(67 村瀬 潤)

水田生態系各部位に生息する生物群集の構造・特性と機能および生物間の相互作用に関する研究に関する研究指導を行う。

(68 阿部 秀樹)

水産動物の神経系、感覚器、運動器に関する形態学的、生理・生態学的、進化的行動学的研究、ならびにペプチドニューロンによる感覚・神経系～行動の持続的制御に関する神経生理学的研究に関する研究指導を行う。

(69 三浦 健)

生理生化学・分子生物学的アプローチを通じた農業害虫の制御法開発に関する研究指導を行う。

(70 石黒 澄衛)

栄養などの環境変化に応答した植物の器官分化・成長調節機構について、特に植物ホルモン作用の果たす役割に焦点を当て、生化学的、分子遺伝学的な手法による研究指導を行う。

(71 木村 眞)

真核生物の情報伝達と遺伝子発現制御機構について、主としてカビを材料として分子遺伝学的、化学遺伝学的な面から解析に関する研究指導を行う。

(72 山篠 貴史)

クロロフィル合成・窒素固定・概日リズム・ホルモン情報伝達の調節機構に関する研究を、主としてシアノバクテリア・植物を材料として、生化学的、細胞分子生物学的、分子遺伝学的観点からの研究指導を行う。

(73 中川 弥智子)

森林群集・樹木個体群の構造と動態、多様性、繁殖生態、生理生態、物質生産に関する生態学、集団遺伝学、分子生態学、生理生態学の研究に関する研究指導を行う。

(74 矢野 勝也)

作物生産の生理・生態学的解析、とくに環境応答・資源獲得に関する研究指導を行う。

(75 山本 一清)

個体レベルの樹木生理学的メカニズムの解明から地理情報システム及びリモートセンシング技術を用いた広域的な資源評価まで、幅広い視点からの環境変化が森林生態系に与える影響に関する研究指導を行う。

(76 今井 貴規)

樹木抽出成分の単離・構造決定、生合成、分布および利用に関する研究指導を行う。

(77 松下 泰幸)

木質化の生化学，抽出成分の化学，リグニンの化学，リグニン機能性物質の調製，製紙科学，セルロースの化学に関する研究指導を行う。

(78 山崎 真理子)

木材・木質材料の構造利用における力学的耐久性，木質構造の力学挙動解析，森林資源の材質分布と需給計画，木質による都市環境デザインなどに関する研究指導を行う。

(79 吉田 正人)

樹木の成長過程と成長応力及び材質発現機構，熱帯造林樹種の成長と木部成熟特性，木質形成の分子生物学，生物材料の水分・熱および力学特性に関する研究指導を行う。

(80 田中 隆文)

生物圏における水・エネルギー・炭素循環の解明，森林構造と気象環境の関係および生物群集と自然災害に関する研究指導を行う。

(81 伊藤 正樹)

高等植物の生長，分化における形質発現に関する生化学的・分子生物学的研究に関する研究指導を行う。

(82 岩崎 雄吾)

新規な生物機能分子，生物反応プロセス，解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(83 上野山 智久)

生殖機能の制御メカニズムに関する神経内分泌学的基础研究とそのメカニズムを利用した畜産や創薬への応用研究に関する研究指導を行う。

(84 MATURANA Andres Daniel)

真核生物における膜輸送体タンパク質、細胞外マトリックスタンパク質の生理機能と情報伝達に関する研究指導を行う。

(85 竹下 広宣)

食料・農業問題に関する社会科学研究および地域資源管理、農業の多面的機能に関する学際的研究に関する研究指導を行う。

(86 土井 一行)

イネのもつ遺伝的多様性や情報通信技術を農業生産に活用するための応用研究に関する研究指導を行う。

(87 梶村 恒)

森林や里山など緑域環境における生物群集の存在様式や生物間相互作用，生態系保全に関する研究指導を行う。

(88 大森 保成)

哺乳類および鳥類の神経統御と生殖制御に関する器官を中心とした生体構造の機能形態学的研究に関する研究指導。

(89 伊藤 香純)

開発途上国が直面している貧困、食料不足、環境破壊など農学領域の問題を、国内外の大学・研究機関と協力して、実践的人づくりを通じて解決することを目的とした研究に関する研究指導を行う。

(90 犬飼 義明)

開発途上国が直面している貧困、食料不足、環境破壊など農学領域の問題を、国内外の大学・研究機関と協力して、実践的人づくりを通じて解決することを目的とした研究に関する研究指導を行う。

(91 槇原 大悟)

開発途上国の作物生産にかかわる課題解決および技術開発に関する研究指導を行う。

(92 上口 美弥子)

有用農業形質についての資源保存及び形態形質に関する分子遺伝学的研究に関する研究指導を行う。

(93 小林 美里)

代謝性疾患（2型糖尿病など）の原因遺伝子と栄養学的制御因子の解明。ビタミンCの新たな生理機能の探求。鳥類卵胞における物質輸送機構の解明（主に抗体輸送を中心にして）。穀物飼料資源の生理的機能性の探求に関する研究指導を行う。

(94 伊藤 智和)

ピリドキサル酵素やフラビン酵素の構造機能相関。D-アミノ酸の生理作用と代謝関連酵素に関する研究。古細菌の脂質合成に関する研究。環境微生物からの有用遺伝子スクリーニング技術の開発に関する研究指導を行う。

(95 北浦 靖之)

栄養素（主にタンパク質・アミノ酸）による酵素および遺伝子発現の制御機構。3次元培養による肝臓特異的遺伝子発現の制御機構に関する研究。肝臓の概日リズムのメカニズムと時間栄養学。分岐鎖アミノ酸の代謝と生理機能に関する研究指導を行う。

(96 安立 昌篤)

特異な化学構造と生物活性を示す天然有機化合物の生物有機化学的研究：新しい有機合成反応・合成方法論の開発、天然有機化合物の全合成研究と生物機能の解析・制御に関する研究指導を行う。

(97 近藤 竜彦)

植物、微生物、海洋生物などが生産する生理活性天然物質の同定、作用機構、生合成、受容体に関する研究指導を行う。

(98 渡邊 健史)

水田生態系各部位に生息する生物群集の構造・特性と機能および生物間の相互作用に関する研究に関する研究指導を行う。

(99 水口 智江可)

生理生化学・分子生物学的アプローチを通じた農業害虫の制御法開発に関する研究指導を行う。

(100 金丸 京子)

真核生物の情報伝達と遺伝子発現制御機構について、主としてカビを材料として分子遺伝学的、化学遺伝学的な面から解析に関する研究指導を行う。

(101 小川 一治)

森林群集・樹木個体群の構造と動態、多様性、繁殖生態、生理生態、物質生産に関する生態学、集団遺伝学、分子生態学、生理生態学の研究に関する研究指導を行う。

(102 三屋 史朗)

水ストレス、塩ストレス耐性などに関わる生理・分子機構の解明、緑化による環境制御に関する研究指導を行う。

(103 稲垣 哲也)

生物資源を対象とした計測システムおよび精密機械プロセスに関する研究指導を行う。

(104 井上 直子)

生殖機能の制御メカニズムに関する神経内分泌学的基础研究とそのメカニズムを利用した畜産や創薬への応用研究に関する研究指導を行う。

(105 兒島 孝明)

新規な生物機能分子、生物反応プロセス、解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(106 新美 友章)

真核生物における膜輸送体タンパク質、細胞外マトリックスタンパク質の生理機能と情報伝達に関する研究指導を行う。

(107 野田口 理孝)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に、花器官の形成、開花、花色に関する生理、また、果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(108 塚田 光)

脊椎動物（哺乳類、鳥類、魚類）の季節適応機構と概日時計機構の解明。季節繁殖や概日時計の制御を通じた動物生産性の向上とヒトの健康の増進に関する研究。ニワトリにおける成長制御と成長因子発現調節に関わる研究指導を行う。

(109 山縣 高宏)

動物の様々な遺伝現象の分子基盤とゲノム・染色体進化の研究、動物遺伝資源の評価と保全・利用、ヒト疾患および生物機能研究用モデル実験動物の開発・育成、量的形質の遺伝子支配の解明に関する研究指導を行う。

(110 大島 健司)

高等動植物における蛋白質、核酸や複合糖質の生合成と生体内での動態、および免疫、受精・発生、細胞増殖・分化などにおける作用機構の生化学・分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(111 高原 照直)

動物細胞の成長・分化・細胞死における情報伝達や細胞内輸送、小胞体を経由しない細胞外分泌、遺伝子発現制御に関する生化学的および分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(112 DAMNJANOVIC Jasmina)

新規な生物機能分子、生物反応プロセス、解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(113 中西 洋一)

膜輸送システムと生体膜情報変換システムの分子構造・作動機構・細胞特異性および生理機能に関する研究指導を行う。

(114 高橋 宏和)

栽培植物の系統分化、形態形成、遺伝子発現および新機能開発に関する発育遺伝育種学的並びに生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(115 太田垣 駿吾)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に、花器官の形成、開花、花色に関する生理、また、果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(116 佐藤 育男)

植物病原菌の感染に対する植物の生体防御機構に関する生理学、生化学および分子生物学的研究。生物防除法の開発とその作用機作の解明を目指した研究に関する研究指導を行う。

(117 後藤 麻木)

水産動物の神経系、感覚器、運動器に関する形態学的、生理・生態学的、進化的行動学的研究、ならびにペプチドニューロンによる感覚・神経系～行動の持続的制御に関する神経生理学的研究に関する研究指導を行う。

(118 山田 早人)

昆虫ウイルスの増殖機構とウイルスと宿主昆虫との相互作用、昆虫の抗ウイルス応答機構についての研究に関する研究指導を行う。

(119 橋本(杉本) 美海)

植物における環境変化の感知と応答の分子機構について、重力屈性を中心に分子遺伝学・細胞生物学・生理学的研究に関する研究指導を行う。

(120 前尾 健一郎)

栄養などの環境変化に応答した植物の器官分化・成長調節機構について、特に植物ホルモン作用の果たす役割に焦点を当て、生化学的、分子遺伝学的な手法による研究指導を行う。

(121 前田 真一)

光合成生物におけるCO₂・NO₃-の同化とクロロフィル合成の制御機構を遺伝子・タンパク質レベルの研究に関する研究指導を行う。

(122 大井 崇生)

資源植物の構造と機能およびその環境応答機構に関する超微形態学的・生化学的・分子生物学的研究指導を行う。

(123 杉浦 大輔)

作物生産の生理・生態学的解析，とくに環境応答・資源獲得に関する研究指導を行う。

(124 富岡 利恵)

個体レベルの樹木生理学的メカニズムの解明から地理情報システム及びリモートセンシング技術を用いた広域的な資源評価まで，幅広い視点からの環境変化が森林生態系に与える影響に関する研究指導を行う。

(125 青木 弾)

木質化の生化学，抽出成分の化学，リグニンの化学，リグニン機能性物質の調製，製紙科学，セルロースの化学に関する研究指導を行う。

(126 安藤 幸世)

木材・木質材料の構造利用における力学的耐久性，木質構造の力学挙動解析，森林資源の材質分布と需給計画，木質による都市環境デザインなどに関する研究指導を行う。

(127 松尾 美幸)

樹木の成長過程と成長応力及び材質発現機構，熱帯造林樹種の成長と木部成熟特性，木質形成の分子生物学，生物材料の水分・熱および力学特性に関する研究指導を行う。

(128 小谷 亜由美)

生物圏における水・エネルギー・炭素循環の解明，森林構造と気象環境の関係および生物群集と自然災害に関する研究指導を行う。

(129 三浦 聡)

食料・農業問題に関する社会科学研究および地域資源管理、農業の多面的機能に関する学際的研究に関する研究指導を行う。

(130 西内 俊策)

イネのもつ遺伝的多様性や情報通信技術を農業生産に活用するための応用研究に関する研究指導を行う。

(131 土岐 和多瑠)

森林や里山など緑域環境における生物群集の存在様式や生物間相互作用，生態系保全に関する研究指導を行う。

	カセサート大学	研究指導	<p>(1 Theeraphap Chareonvirivaphap) 主にタイにおける蚊を含む昆虫および寄生虫が起す人の病気（マラリア、デング熱）、殺虫剤に対する習性および耐性の変化、環境に優しい殺虫剤に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 Krisana Krisanapook) 果樹の成長過程にみられる水分と栄養の変化およびその限界に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(3 Sirinporn Sindhuanich) 動物生理学の観点から乳牛を対象とする産物の質、繁殖および遺伝に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 Chainarong Rattanakreetakul) コレトリカム菌およびそれによる炭疽病を含む植物病理の識別を行い、ポストハーベストマネージメントに応用する方向性の研究で研究指導を行う。</p> <p>(5 Chanate Malumpong) 主にイネにおける最適育種を遺伝学の観点から探る研究の研究指導を行う。</p> <p>(6 Kietsuda Luengwilai) トマト、パイナップル、ココナッツなどの植物におけるポストハーベストの品質研究で研究指導を行う。</p> <p>(7 Lerchart Boon-ek) 乳牛およびその他反芻動物からの粗製グリセリンの評価、並びに緑茶エキスが乳牛に与える影響に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(8 Prakrit Somta) マメ科植物の生産性および病害に影響を与える遺伝子に関する研究、QTLやSSRマーカーによる遺伝子評価に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(9 Ratiya Pongpisutta) 炭疽病を発生させるコレトリカム属菌の多様性における研究の研究指導を行う。</p> <p>(10 Seksom Attamangkune) 年齢および大小の違いによる鶏卵の特徴から、飼料サイズ、温度、家畜密度の違いが与える成長・産卵・卵質への影響まで、家禽類の生理学および栄養学に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(11 Supatida Abdullakasim) デンドロビウムやその他植物の成長に影響を与える要因の研究等、植物生理学に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(12 Suphachai Amkha) 野菜、果物および穀物の成長と肥料の関係性についての研究、ピーマン、トマト、ケール、メロン、グレープおよびジャスミンライスで窒素肥料、ケイ酸カルシウム、リン酸肥料及び化学肥料が与える影響についての研究の研究指導を行う。</p>	
--	---------	------	--	--

(13 Chaiyapoom Bunchasak)

家禽および家畜動物に与える食物・水に種々栄養素を加えることでみられる影響変化について動物科学の視点での研究の研究指導を行う。

(14 Kannika Sajjaphan)

微生物による土壌内の毒性有機物の分解解析研究の研究指導を行う。

(15 Poonpipope Kasemsap)

ゴムノキの樹液流動のモデル化および水分ストレス研究、果実のオゾンストレスの影響分析に関する研究の研究指導を行う。

(16 Tanee Sreewongchai)

穀物、主にコメの遺伝子の多様性を評価し、収穫と耐病性の改善に還元する研究の研究指導を行う。

(17 Wiboon Chongrattanamateekul)

スイートバジル、コーンおよびバイオディーゼル原料であるナンヨウアブラギリの生産システム別、害虫・農薬管理に関する研究の研究指導を行う。

(18 Donludee Jaisut)

植物の特性と気温／温度変化による影響を、エネルギーテクノロジーの観点で分析する研究の研究指導を行う。

(19 Netnapis Khewkhom)

果実修学後に発生する青かび等を防ぐ物質の植物病理学的研究の研究指導を行う。

(20 Patchareeya Boonkorkaew)

作物、特にキュウリの育成条件および着果後の影響に注目する研究の研究指導を行う。

(21 Saowanuch Tawornpruek)

各地域での土壌の成分分析をGISアプリケーションを用いて行い、作物への影響を考察する研究の研究指導を行う。

(22 Skorn Koonawootrittriron)

統計および遺伝パラメータによる家畜の生産量および生産期間の分析研究の研究指導を行う。

(23 Sudsaisin Kaewrueng)

さまざまな農業作物における水分量の適正化および生産期間の分析研究の研究指導を行う。

(24 Sutkhet Nakasathien)

穀物における水分負荷および土壌内の栄養素の変化でみられる成長への影響、ならびに種蒔方法の違いによる生産効果の研究の研究指導を行う。

			<p>(25 Tida Dethoup) 海洋性および土壌菌類成分の活動の研究の研究指導を行う。</p> <p>(26 Napat Kamthonsiriwimol) 穀物における菌測定技術から、ポストハーベストテクノロジーおよび精密農業の研究の研究指導を行う。</p> <p>(27 Siwaret Arikrit) ケファレウス、キャッサバ、コーン、ココナッツ等植物のDNAおよびRNAレベルでの植物遺伝学およびエピジェネティクスの研究の研究指導を行う。</p> <p>(28 Sunisa Sanguansub) 日本のブナ科植物が害虫による穿孔および菌類の繁殖で受けるダメージに注目した森林昆虫生態学の研究の研究指導を行う。</p> <p>(29 Wirawan Junlapho) 環境や飼料が乳牛、豚等、家畜に与える影響をバイオテクノロジー、遺伝子発現、プロテオミクス、ニュートリゲノミクスの切り口でみる研究の研究指導を行う。</p>	
--	--	--	---	--

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号（その3の1）に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携教育学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 3 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

<p style="text-align: center;">授業科目の概要（国際連携学科等）</p> <p style="text-align: center;">（生命農学研究科 名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻）（名古屋大学）</p>				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	名古屋大学	博士論文研究ⅠA	専門分野における過去の知見を集約し、これまでの研究の背景を総括するとともに、研究課題の意義、目標についてとりまとめ、研究計画を作成する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅡA	主大学における研究遂行に必要な実験技術・解析手法を習得し、課題を遂行する。得られたデータを分析し、成果を取りまとめる。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅢA	副大学における研究遂行に必要な実験技術・解析手法を習得し、課題を遂行する。専門分野における外国語でのコミュニケーション、プレゼンテーションのスキルを習得する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅣA	副大学での研究で得られたデータを分析し、成果を取りまとめて英文で報告書を作成する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅤA	主大学における研究課題を遂行し、主大学、副大学における研究成果を総合的に解析する。	
	名古屋大学	博士論文研究ⅥA	得られた知見を総括し、専門分野における研究意義を取りまとめる。	
	名古屋大学	研究指導	<p>(1 北野 英己)</p> <p>有用農業形質についての資源保存及び形態形質に関する分子遺伝学的研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 松岡 信)</p> <p>高等植物の形態形成、器官形成、植物ホルモンの信号伝達に関する生理学的・分子生物学的研究、及びそれを活用した分子育種学的研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 芦荻 基行)</p> <p>高等植物における環境適応と生存戦略に関する分子生物学的研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 北島 健)</p> <p>受精、発生、神経機能、免疫現象における細胞表面糖鎖が関与する細胞間相互作用と情報伝達に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 服部 東穂)</p> <p>高等植物の成長・分化制御とその環境情報応答に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 北 将樹)</p> <p>生物現象を司る天然物の単離、構造決定、合成、作用機序に関する研究。哺乳動物由来の麻痺性神経毒や、海洋生物の共生現象鍵物質に関する研究。蛍光プローブを用いた新たな標的分子の解析法の開発に関する研究指導を行う。</p>	

(7 一柳 健司)

脊椎動物におけるトランスポゾンや遺伝子のエピジェネティック制御機構の研究。生殖細胞形成期のエピゲノム制御機構の研究。種間および種内でのエピゲノムやゲノムの比較解析を通じた、ゲノムとエピゲノムの相互作用に関する研究指導を行う。

(8 堀尾 文彦)

代謝性疾患（2型糖尿病など）の原因遺伝子と栄養学的制御因子の解明。ビタミンCの新たな生理機能の探求。鳥類卵胞における物質輸送機構の解明（主に抗体輸送を中心にして）。穀物飼料資源の生理的機能性の探求に関する研究指導を行う。

(9 下村 吉治)

栄養素（主にタンパク質・アミノ酸）による酵素および遺伝子発現の制御機構。3次元培養による肝臓特異的遺伝子発現の制御機構に関する研究。肝臓の概日リズムのメカニズムと時間栄養学。分岐鎖アミノ酸の代謝と生理機能に関する研究指導を行う。

(10 牧 正敏)

動物細胞の成長・分化・細胞死における情報伝達や細胞内輸送、小胞体を経由しない細胞外分泌、遺伝子発現制御に関する生化学的および分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(11 松田 幹)

高等動植物における蛋白質、核酸や複合糖質の生合成と生体内での動態、および免疫、受精・発生、細胞増殖・分化などにおける作用機構の生化学・分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(12 吉村 徹)

ピリドキサル酵素やフラビン酵素の構造機能相関。D-アミノ酸の生理作用と代謝関連酵素に関する研究。古細菌の脂質合成に関する研究。環境微生物からの有用遺伝子スクリーニング技術の開発に関する研究指導を行う。

(13 青井 啓悟)

糖鎖高分子、生物機能高分子、生分解性高分子、植物由来高分子およびこれらを活用した医用高分子の設計、精密合成、機能発現に関する研究。生物学的機能を有するバイオマテリアルの創出に関する研究指導を行う。

(14 小鹿 一)

植物、微生物、海洋生物などが生産する生理活性天然物質の同定、作用機構、生合成、受容体に関する研究指導を行う。

(15 西川 俊夫)

特異な化学構造と生物活性を示す天然有機化合物の生物有機化学的研究：新しい有機合成反応・合成方法論の開発、天然有機化合物の全合成研究と生物機能の解析・制御に関する研究指導を行う。

(16 前島 正義)

膜輸送システムと生体膜情報変換システムの分子構造・作動機構・細胞特異性および生理機能に関する研究指導を行う。

(17 浅川 晋)

水田生態系各部位に生息する生物群集の構造・特性と機能および生物間の相互作用に関する研究に関する研究指導を行う。

(18 川北 一人)

植物病原菌の感染に対する植物の生体防御機構に関する生理学、生化学および分子生物学的研究。生物防除法の開発とその作用機作の解明を目指した研究に関する研究指導を行う。

(19 中園 幹生)

栽培植物の系統分化、形態形成、遺伝子発現および新機能開発に関する発育遺伝育種学的並びに生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(20 松本 省吾)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に、花器官の形成、開花、花色に関する生理、また、果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(21 池田 素子)

昆虫ウイルスの増殖機構とウイルスと宿主昆虫との相互作用、昆虫の抗ウイルス応答機構についての研究に関する研究指導を行う。

(22 本道 栄一)

哺乳類および鳥類の神経統御と生殖制御に関する器官を中心とした生体構造の機能形態学的研究に関する研究指導。

(23 山本 直之)

水産動物の神経系、感覚器、運動器に関する形態学的、生理・生態学的、進化的行動学的研究、ならびにペプチドニューロンによる感覚・神経系～行動の持続的制御に関する神経生理学的研究に関する研究指導を行う。

(24 榊原 均)

栄養などの環境変化に応答した植物の器官分化・成長調節機構について、特に植物ホルモン作用の果たす役割に焦点を当て、生化学的、分子遺伝学的な手法による研究指導を行う。

(25 小俣 達男)

光合成生物におけるCO₂・NO₃-の同化とクロロフィル合成の制御機構を遺伝子・タンパク質レベルの研究に関する研究指導を行う。

(26 小林 哲夫)

真核生物の情報伝達と遺伝子発現制御機構について、主としてカビを材料として分子遺伝学的、化学遺伝学的な面から解析に関する研究指導を行う。

(27 藤田 祐一)

クロロフィル合成・窒素固定・概日リズム・ホルモン情報伝達の調節機構に関する研究を、主としてシアノバクテリア・植物を材料として、生化学的、細胞分子生物学的、分子遺伝学的観点からの研究指導を行う。

(28 森田 (寺尾) 美代)

植物における環境変化の感知と応答の分子機構について、重力屈性を中心に分子遺伝学・細胞生物学・生理学的研究に関する研究指導を行う。

(29 近藤 始彦)

作物生産の生理・生態学的解析，とくに環境応答・資源獲得に関する研究指導を行う。

(30 竹中 千里)

個体レベルの樹木生理学的メカニズムの解明から地理情報システム及びリモートセンシング技術を用いた広域的な資源評価まで，幅広い視点からの環境変化が森林生態系に与える影響に関する研究指導を行う。

(31 谷口 光隆)

資源植物の構造と機能およびその環境応答機構に関する超微形態学的・生化学的・分子生物学的研究指導を行う。

(32 戸丸 信弘)

森林群集・樹木個体群の構造と動態、多様性、繁殖生態、生理生態、物質生産に関する生態学、集団遺伝学、分子生態学、生理生態学の研究に関する研究指導を行う。

(33 山内 章)

水ストレス、塩ストレス耐性などに関わる生理・分子機構の解明、緑化による環境制御に関する研究指導を行う。

(34 渡邊 彰)

土壌圏を中心とした環境中における炭素、窒素、微量元素の動態に関する研究，腐植物質の化学に関する研究指導を行う。

(35 土川 覚)

生物資源を対象とした計測システムおよび精密機械プロセスに関する研究指導を行う。

(36 福島 和彦)

木質化の生化学，抽出成分の化学，リグニンの化学，リグニン機能性物質の調製，製紙科学，セルロースの化学に関する研究指導を行う。

(37 山本 浩之)

樹木の成長過程と成長応力及び材質発現機構，熱帯造林樹種の成長と木部成熟特性，木質形成の分子生物学，生物材料の水分・熱および力学特性に関する研究指導を行う。

(38 太田 岳史)

生物圏における水・エネルギー・炭素循環の解明，森林構造と気象環境の関係および生物群集と自然災害に関する研究指導を行う。

(39 原田 一宏)

途上国の熱帯林保全と地域住民の生計向上をめざした森林管理政策、地域住民を対象とした森林認証制度、参加型森林管理及び、国内の木材収穫技術、森林作業の人間工学的解明、森林利用と環境保全の両立、及び持続可能な森林管理技術に関する研究指導を行う。

(40 東村 博子)

生殖機能の制御メカニズムに関する神経内分泌学的基礎研究とそのメカニズムを利用した畜産や創薬への応用研究に関する研究指導を行う。

(41 中野 秀雄)

新規な生物機能分子、生物反応プロセス、解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(42 森 仁志)

高等植物の生長、分化における形質発現に関する生化学的・分子生物学的研究に関する研究指導を行う。

(43 柘植 尚志)

植物生産にかかわる微生物の機能とその制御に関する研究指導を行う。

(44 肘井 直樹)

森林や里山など緑域環境における生物群集の存在様式や生物間相互作用、生態系保全に関する研究指導を行う。

(45 大蔵 聡)

反芻家畜の生理機能の調節機序に関する基礎研究とその機能を利用した動物生産にかかわる応用研究に関する研究指導を行う。

(46 松田 洋一)

動物の様々な遺伝現象の分子基盤とゲノム・染色体進化の研究、動物遺伝資源の評価と保全・利用、ヒト疾患および生物機能研究用モデル実験動物の開発・育成、量的形質の遺伝子支配の解明に関する研究指導を行う。

(47 江原 宏)

開発途上国の作物生産にかかわる課題解決および技術開発に関する研究指導を行う。

(48 吉村 崇)

脊椎動物（哺乳類、鳥類、魚類）の季節適応機構と概日時計機構の解明。季節繁殖や概日時計の制御を通じた動物生産性の向上とヒトの健康の増進に関する研究。ニワトリにおける成長制御と成長因子発現調節に関わる研究指導を行う。

(49 佐塚 隆志)

高等植物の形態形成、器官形成、植物ホルモンの信号伝達に関する生理学的・分子生物学的研究、及びそれを活用した分子育種学的研究に関する研究指導を行う。

(50 上口 智治)

高等植物の成長・分化制御とその環境情報応答に関する研究指導を行う。

(51 佐藤 ちひろ)

受精, 発生, 神経機能, 免疫現象における細胞表面糖鎖が関与する細胞間相互作用と情報伝達に関する研究指導を行う。

(52 武田 真)

高等植物の成長・分化制御とその環境情報応答に関する研究指導を行う。

(53 大川 妙子)

脊椎動物(哺乳類、鳥類、魚類)の季節適応機構と概日時計機構の解明。季節繁殖や概日時計の制御を通じた動物生産性の向上とヒトの健康の増進に関する研究。ニワトリにおける成長制御と成長因子発現調節に関わる研究指導を行う。

(54 石川 明)

動物の様々な遺伝現象の分子基盤とゲノム・染色体進化の研究, 動物遺伝資源の評価と保全・利用, ヒト疾患および生物機能研究用モデル実験動物の開発・育成, 量的形質の遺伝子支配の解明に関する研究指導を行う。

(55 村井 篤嗣)

代謝性疾患(2型糖尿病など)の原因遺伝子と栄養学的制御因子の解明。ビタミンCの新たな生理機能の探求。鳥類卵胞における物質輸送機構の解明(主に抗体輸送を中心にして)。穀物飼料資源の生理的機能性の探求に関する研究指導を行う。

(56 小田 裕昭)

栄養素(主にタンパク質・アミノ酸)による酵素および遺伝子発現の制御機構。3次元培養による肝臓特異的遺伝子発現の制御機構に関する研究。肝臓の概日リズムのメカニズムと時間栄養学。分岐鎖アミノ酸の代謝と生理機能に関する研究指導を行う。

(57 柴田 秀樹)

動物細胞の成長・分化・細胞死における情報伝達や細胞内輸送、小胞体を経由しない細胞外分泌、遺伝子発現制御に関する生化学的および分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(58 灘野 大太)

高等動植物における蛋白質, 核酸や複合糖質の生合成と生体内での動態, および免疫, 受精・発生, 細胞増殖・分化などにおける作用機構の生化学・分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(59 邊見 久)

ピリドキサル酵素やフラビン酵素の構造機能相関。D-アミノ酸の生理作用と代謝関連酵素に関する研究。古細菌の脂質合成に関する研究。環境微生物からの有用遺伝子スクリーニング技術の開発に関する研究指導を行う。

(60 柴田 貴広)

食と健康をキーワードとした基礎研究、特に生活習慣病に関連した内因性因子としての酸化ストレス、及び外因性環境因子としての機能性食品に関する研究指導を行う。

(61 中川 優)

植物、微生物、海洋生物などが生産する生理活性天然物質の同定、作用機構、生合成、受容体に関する研究指導を行う。

(62 中崎 敦夫)

特異な化学構造と生物活性を示す天然有機化合物の生物有機化学的研究：新しい有機合成反応・合成方法論の開発、天然有機化合物の全合成研究と生物機能の解析・制御に関する研究指導を行う。

(63 野村 信嘉)

糖鎖高分子、生物機能高分子、生分解性高分子、植物由来高分子およびこれらを活用した医用高分子の設計、精密合成、機能発現に関する研究。生物的機能を有するバイオマテリアルの創出に関する研究指導を行う。

(64 吉岡 博文)

植物-病原菌相関で誘導される植物免疫の分子機構に関する研究指導を行う。

(65 白武 勝裕)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に、花器官の形成、開花、花色に関する生理、また、果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(66 竹本 大吾)

植物病原菌の感染に対する植物の生体防御機構に関する生理学、生化学および分子生物学的研究。生物防除法の開発とその作用機作の解明を目指した研究に関する研究指導を行う。

(67 村瀬 潤)

水田生態系各部位に生息する生物群集の構造・特性と機能および生物間の相互作用に関する研究に関する研究指導を行う。

(68 阿部 秀樹)

水産動物の神経系、感覚器、運動器に関する形態学的、生理・生態学的、進化的行動学的研究、ならびにペプチドニューロンによる感覚・神経系～行動の持続的制御に関する神経生理学的研究に関する研究指導を行う。

(69 三浦 健)

生理生化学・分子生物学的アプローチを通じた農業害虫の制御法開発に関する研究指導を行う。

(70 石黒 澄衛)

栄養などの環境変化に応答した植物の器官分化・成長調節機構について、特に植物ホルモン作用の果たす役割に焦点を当て、生化学的、分子遺伝学的な手法による研究指導を行う。

(71 木村 眞)

真核生物の情報伝達と遺伝子発現制御機構について、主としてカビを材料として分子遺伝学的、化学遺伝学的な面から解析に関する研究指導を行う。

(72 山篠 貴史)

クロロフィル合成・窒素固定・概日リズム・ホルモン情報伝達の調節機構に関する研究を、主としてシアノバクテリア・植物を材料として、生化学的、細胞分子生物学的、分子遺伝学的観点からの研究指導を行う。

(73 中川 弥智子)

森林群集・樹木個体群の構造と動態、多様性、繁殖生態、生理生態、物質生産に関する生態学、集団遺伝学、分子生態学、生理生態学の研究に関する研究指導を行う。

(74 矢野 勝也)

作物生産の生理・生態学的解析，とくに環境応答・資源獲得に関する研究指導を行う。

(75 山本 一清)

個体レベルの樹木生理学的メカニズムの解明から地理情報システム及びリモートセンシング技術を用いた広域的な資源評価まで，幅広い視点からの環境変化が森林生態系に与える影響に関する研究指導を行う。

(76 今井 貴規)

樹木抽出成分の単離・構造決定、生合成，分布および利用に関する研究指導を行う。

(77 松下 泰幸)

木質化の生化学，抽出成分の化学，リグニンの化学，リグニン機能性物質の調製，製紙科学，セルロースの化学に関する研究指導を行う。

(78 山崎 真理子)

木材・木質材料の構造利用における力学的耐久性，木質構造の力学挙動解析，森林資源の材質分布と需給計画，木質による都市環境デザインなどに関する研究指導を行う。

(79 吉田 正人)

樹木の成長過程と成長応力及び材質発現機構，熱帯造林樹種の成長と木部成熟特性，木質形成の分子生物学，生物材料の水分・熱および力学特性に関する研究指導を行う。

(80 田中 隆文)

生物圏における水・エネルギー・炭素循環の解明，森林構造と気象環境の関係および生物群集と自然災害に関する研究指導を行う。

(81 伊藤 正樹)

高等植物の生長，分化における形質発現に関する生化学的・分子生物学的研究に関する研究指導を行う。

(82 岩崎 雄吾)

新規な生物機能分子，生物反応プロセス，解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(83 上野山 智久)

生殖機能の制御メカニズムに関する神経内分泌学的基础研究とそのメカニズムを利用した畜産や創薬への応用研究に関する研究指導を行う。

(84 MATURANA Andres Daniel)

真核生物における膜輸送体タンパク質、細胞外マトリックスタンパク質の生理機能と情報伝達に関する研究指導を行う。

(85 竹下 広宣)

食料・農業問題に関する社会科学研究および地域資源管理、農業の多面的機能に関する学際的研究に関する研究指導を行う。

(86 土井 一行)

イネのもつ遺伝的多様性や情報通信技術を農業生産に活用するための応用研究に関する研究指導を行う。

(87 梶村 恒)

森林や里山など緑域環境における生物群集の存在様式や生物間相互作用，生態系保全に関する研究指導を行う。

(88 大森 保成)

哺乳類および鳥類の神経統御と生殖制御に関する器官を中心とした生体構造の機能形態学的研究に関する研究指導。

(89 伊藤 香純)

開発途上国が直面している貧困，食料不足，環境破壊など農学領域の問題を，国内外の大学・研究機関と協力して，実践的人づくりを通じて解決することを目的とした研究に関する研究指導を行う。

(90 犬飼 義明)

開発途上国が直面している貧困，食料不足，環境破壊など農学領域の問題を，国内外の大学・研究機関と協力して，実践的人づくりを通じて解決することを目的とした研究に関する研究指導を行う。

(91 榎原 大悟)

開発途上国の作物生産にかかわる課題解決および技術開発に関する研究指導を行う。

(92 上口 美弥子)

有用農業形質についての資源保存及び形態形質に関する分子遺伝学的研究に関する研究指導を行う。

(93 小林 美里)

代謝性疾患（2型糖尿病など）の原因遺伝子と栄養学的制御因子の解明。ビタミンCの新たな生理機能の探求。鳥類卵胞における物質輸送機構の解明（主に抗体輸送を中心にして）。穀物飼料資源の生理的機能性の探求に関する研究指導を行う。

(94 伊藤 智和)

ピリドキサル酵素やフラビン酵素の構造機能相関。D-アミノ酸の生理作用と代謝関連酵素に関する研究。古細菌の脂質合成に関する研究。環境微生物からの有用遺伝子スクリーニング技術の開発に関する研究指導を行う。

(95 北浦 靖之)

栄養素（主にタンパク質・アミノ酸）による酵素および遺伝子発現の制御機構。3次元培養による肝臓特異的遺伝子発現の制御機構に関する研究。肝臓の概日リズムのメカニズムと時間栄養学。分岐鎖アミノ酸の代謝と生理機能に関する研究指導を行う。

(96 安立 昌篤)

特異な化学構造と生物活性を示す天然有機化合物の生物有機化学的研究：新しい有機合成反応・合成方法論の開発、天然有機化合物の全合成研究と生物機能の解析・制御に関する研究指導を行う。

(97 近藤 竜彦)

植物、微生物、海洋生物などが生産する生理活性天然物質の同定、作用機構、生合成、受容体に関する研究指導を行う。

(98 渡邊 健史)

水田生態系各部位に生息する生物群集の構造・特性と機能および生物間の相互作用に関する研究に関する研究指導を行う。

(99 水口 智江可)

生理生化学・分子生物学的アプローチを通じた農業害虫の制御法開発に関する研究指導を行う。

(100 金丸 京子)

真核生物の情報伝達と遺伝子発現制御機構について、主としてカビを材料として分子遺伝学的、化学遺伝学的な面から解析に関する研究指導を行う。

(101 小川 一治)

森林群集・樹木個体群の構造と動態、多様性、繁殖生態、生理生態、物質生産に関する生態学、集団遺伝学、分子生態学、生理生態学の研究に関する研究指導を行う。

(102 三屋 史朗)

水ストレス、塩ストレス耐性などに関わる生理・分子機構の解明、緑化による環境制御に関する研究指導を行う。

(103 稲垣 哲也)

生物資源を対象とした計測システムおよび精密機械プロセスに関する研究指導を行う。

(104 井上 直子)

生殖機能の制御メカニズムに関する神経内分泌学的基礎研究とそのメカニズムを利用した畜産や創薬への応用研究に関する研究指導を行う。

(105 児島 孝明)

新規な生物機能分子，生物反応プロセス，解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(106 新美 友章)

真核生物における膜輸送体タンパク質，細胞外マトリックスタンパク質の生理機能と情報伝達に関する研究指導を行う。

(107 野田口 理孝)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に、花器官の形成、開花、花色に関する生理、また、果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(108 塚田 光)

脊椎動物（哺乳類、鳥類、魚類）の季節適応機構と概日時計機構の解明。季節繁殖や概日時計の制御を通じた動物生産性の向上とヒトの健康の増進に関する研究。ニワトリにおける成長制御と成長因子発現調節に関わる研究指導を行う。

(109 山縣 高宏)

動物の様々な遺伝現象の分子基盤とゲノム・染色体進化の研究，動物遺伝資源の評価と保全・利用，ヒト疾患および生物機能研究用モデル実験動物の開発・育成，量的形質の遺伝子支配の解明に関する研究指導を行う。

(110 大島 健司)

高等動植物における蛋白質，核酸や複合糖質の生合成と生体内での動態，および免疫，受精・発生，細胞増殖・分化などにおける作用機構の生化学・分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(111 高原 照直)

動物細胞の成長・分化・細胞死における情報伝達や細胞内輸送、小胞体を経由しない細胞外分泌、遺伝子発現制御に関する生化学的および分子細胞生物学的研究に関する研究指導を行う。

(112 DAMNJANOVIC Jasmina)

新規な生物機能分子，生物反応プロセス，解析システムを創成することを目的とした生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(113 中西 洋一)

膜輸送システムと生体膜情報変換システムの分子構造・作動機構・細胞特異性および生理機能に関する研究指導を行う。

(114 高橋 宏和)

栽培植物の系統分化，形態形成，遺伝子発現および新機能開発に関する発育遺伝育種学的並びに生物工学的研究に関する研究指導を行う。

(115 太田垣 駿吾)

園芸作物の生産性向上のためのバイオテクノロジーおよび生理学・生化学・分子生物学的研究。特に、花器官の形成、開花、花色に関する生理、また、果実の結実生理および糖や二次代謝産物などの物質蓄積の解明とその制御に関する研究指導を行う。

(116 佐藤 育男)

植物病原菌の感染に対する植物の生体防御機構に関する生理学、生化学および分子生物学的研究。生物防除法の開発とその作用機作の解明を目指した研究に関する研究指導を行う。

(117 後藤 麻木)

水産動物の神経系、感覚器、運動器に関する形態学的、生理・生態学的、進化的行動学的研究、ならびにペプチドニューロンによる感覚・神経系～行動の持続的制御に関する神経生理学的研究に関する研究指導を行う。

(118 山田 早人)

昆虫ウイルスの増殖機構とウイルスと宿主昆虫との相互作用、昆虫の抗ウイルス応答機構についての研究に関する研究指導を行う。

(119 橋本(杉本) 美海)

植物における環境変化の感知と応答の分子機構について、重力屈性を中心に分子遺伝学・細胞生物学・生理学的研究に関する研究指導を行う。

(120 前尾 健一郎)

栄養などの環境変化に応答した植物の器官分化・成長調節機構について、特に植物ホルモン作用の果たす役割に焦点を当て、生化学的、分子遺伝学的な手法による研究指導を行う。

(121 前田 真一)

光合成生物におけるCO₂・NO₃-の同化とクロロフィル合成の制御機構を遺伝子・タンパク質レベルの研究に関する研究指導を行う。

(122 大井 崇生)

資源植物の構造と機能およびその環境応答機構に関する超微形態学的・生化学的・分子生物学的研究指導を行う。

			<p>(123 杉浦 大輔)</p> <p>作物生産の生理・生態学的解析，とくに環境応答・資源獲得に関する研究指導を行う。</p> <p>(124 富岡 利恵)</p> <p>個体レベルの樹木生理学的メカニズムの解明から地理情報システム及びリモートセンシング技術を用いた広域的な資源評価まで，幅広い視点からの環境変化が森林生態系に与える影響に関する研究指導を行う。</p> <p>(125 青木 弾)</p> <p>木質化の生化学，抽出成分の化学，リグニンの化学，リグニン機能性物質の調製，製紙科学，セルロースの化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(126 安藤 幸世)</p> <p>木材・木質材料の構造利用における力学的耐久性，木質構造の力学挙動解析，森林資源の材質分布と需給計画，木質による都市環境デザインなどに関する研究指導を行う。</p> <p>(127 松尾 美幸)</p> <p>樹木の成長過程と成長応力及び材質発現機構，熱帯造林樹種の成長と木部成熟特性，木質形成の分子生物学，生物材料の水分・熱および力学特性に関する研究指導を行う。</p> <p>(128 小谷 亜由美)</p> <p>生物圏における水・エネルギー・炭素循環の解明，森林構造と気象環境の関係および生物群集と自然災害に関する研究指導を行う。</p> <p>(129 三浦 聡)</p> <p>食料・農業問題に関する社会科学研究および地域資源管理、農業の多面的機能に関する学際的研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(130 西内 俊策)</p> <p>イネのもつ遺伝的多様性や情報通信技術を農業生産に活用するための応用研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(131 土岐 和多瑠)</p> <p>森林や里山など緑域環境における生物群集の存在様式や生物間相互作用，生態系保全に関する研究指導を行う。</p>
--	--	--	---

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は，別記様式第2号（その3の1）に代えて，この書類を作成すること。加えて，国際連携教育学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については，当該科目の単位を修得した場合に，単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
- 3 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

授業科目の概要（国際連携学科等）				
（生命農学研究科 名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻）（カセサート大学）				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	カセサート大学	博士論文研究IB	専門分野における過去の知見を集約し、これまでの研究の背景を総括するとともに、研究課題の意義、目標についてとりまとめ、研究計画を作成する。	
	カセサート大学	博士論文研究IIB	主大学における研究遂行に必要な実験技術・解析手法を習得し、課題を遂行する。得られたデータを分析し、成果を取りまとめる。	
	カセサート大学	博士論文研究IIIB	副大学における研究遂行に必要な実験技術・解析手法を習得し、課題を遂行する。専門分野における外国語でのコミュニケーション、プレゼンテーションのスキルを習得する。	
	カセサート大学	博士論文研究IVB	副大学での研究で得られたデータを分析し、成果を取りまとめて英文で報告書を作成する。	
	カセサート大学	博士論文研究VB	主大学における研究課題を遂行し、主大学、副大学における研究成果を総合的に解析する。	
	カセサート大学	博士論文研究VIB	得られた知見を総括し、専門分野における研究意義を取りまとめる。	
	カセサート大学	研究指導	<p>(1 Theeraphap Chareonvirivaph)</p> <p>主にタイにおける蚊を含む昆虫および寄生虫が起こす人の病気（マラリヤ、デング熱）、殺虫剤に対する習性および耐性の変化、環境に優しい殺虫剤に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 Krisana Krisanapook)</p> <p>果樹の成長過程にみられる水分と栄養の変化およびその限界に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(3 Sirinporn Sindhuvanich)</p> <p>動物生理学の観点から乳牛を対象とする産物の質、繁殖および遺伝に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 Chainarong Rattanakreetakul)</p> <p>コレトリカム菌およびそれによる炭疽病を含む植物病理の識別を行い、ポストハーベストマネージメントに応用する方向性の研究で研究指導を行う。</p> <p>(5 Chanate Malumpong)</p> <p>主にイネにおける最適育種を遺伝学の観点から探る研究の研究指導を行う。</p> <p>(6 Kietsuda Luengwilai)</p> <p>トマト、パイナップル、ココナッツなどの植物におけるポストハーベストの品質研究で研究指導を行う。</p>	

(7 Lerchart Boon-ek)

乳牛およびその他反芻動物からの粗製グリセリンの評価、並びに緑茶エキスが乳牛に与える影響に関する研究の研究指導を行う。

(8 Prakrit Somta)

マメ科植物の生産性および病害に影響を与える遺伝子に関する研究、QTLやSSRマーカーによる遺伝子評価に関する研究の研究指導を行う。

(9 Ratiya Pongpisutta)

炭疽病を発生させるコレトリカム属菌の多様性における研究の研究指導を行う。

(10 Seksom Attamangkune)

年齢および大小の違いによる鶏卵の特徴から、飼料サイズ、温度、家畜密度の違いが与える成長・産卵・卵質への影響まで、家禽類の生理学および栄養学に関する研究の研究指導を行う。

(11 Supatida Abdullakasim)

デンドロビウムやその他植物の成長に影響を与える要因の研究等、植物生理学に関する研究の研究指導を行う。

(12 Suphachai Amkha)

野菜、果物および穀物の成長と肥料の関係性についての研究、ピーマン、トマト、ケール、メロン、グレープおよびジャスミンライスで窒素肥料、ケイ酸カルシウム、リン酸肥料及び化学肥料が与える影響についての研究の研究指導を行う。

(13 Chaiyapoom Bunchasak)

家禽および家畜動物に与える食物・水に種々栄養素を加えることでみられる影響変化について動物科学の視点での研究の研究指導を行う。

(14 Kannika Sajjaphan)

微生物による土壌内の毒性有機物の分解解析研究の研究指導を行う。

(15 Poonpipope Kasemsap)

ゴムノキの樹液流動のモデル化および水分ストレス研究、果実のオゾンストレスの影響分析に関する研究の研究指導を行う。

(16 Tanee Sreewongchai)

穀物、主にコメの遺伝子の多様性を評価し、収穫と耐病性の改善に還元する研究の研究指導を行う。

(17 Wiboon Chongrattanameteeikul)

スイートバジル、コーンおよびバイオディーゼルの原料であるナンヨウアブラガリの生産システム別、害虫・農薬管理に関する研究の研究指導を行う。

(18 Donludee Jaisut)

植物の特性と気温／温度変化による影響を、エネルギーテクノロジーの観点で分析する研究の研究指導を行う。

(19 Netnapis Khewkhom)

果実修学後に発生する青かび等を防ぐ物質の植物病理学的研究の研究指導を行う。

(20 Patchareeya Boonkorkeaw)

作物、特にキュウリの育成条件および着果後の影響に注目する研究の研究指導を行う。

(21 Saowanuch Tawornpruek)

各地域での土壌の成分分析をGISアプリケーションを用いて行い、作物への影響を考察する研究の研究指導を行う。

(22 Skorn Koonawootrittriron)

統計および遺伝パラメータによる家畜の生産量および生産期間の分析研究の研究指導を行う。

(23 Sudsaisin Kaewrueng)

さまざまな農業作物における水分量の適正化および生産期間の分析研究の研究指導を行う。

(24 Sutkhet Nakasathien)

穀物における水分負荷および土壌内の栄養素の変化でみられる成長への影響、ならびに種蒔方法の違いによる生産効果の研究の研究指導を行う。

(25 Tida Dethoup)

海洋性および土壌菌類成分の活動の研究の研究指導を行う。

(26 Napat Kamthonsiriwimol)

穀物における菌測定技術から、ポストハーベストテクノロジーおよび精密農業の研究の研究指導を行う。

(27 Siwaret Arikrit)

ケファレウス、キャッサバ、コーン、ココナッツ等植物のDNAおよびRNAレベルでの植物遺伝学およびエピジェネティクスの研究の研究指導を行う。

(28 Sunisa Sanguansub)

日本のブナ科植物が害虫による穿孔および菌類の繁殖で受けるダメージに注目した森林昆虫生態学の研究の研究指導を行う。

(29 Wirawan Junlapho)

環境や飼料が乳牛、豚等、家畜に与える影響をバイオテクノロジー、遺伝子発現、プロテオミクス、ニュートリゲノミクスの切り口でみる研究の研究指導を行う。

(注)

- 1 国際連携学科等を設置する場合は、別記様式第2号(その3の1)に代えて、この書類を作成すること。加えて、国際連携教育学科等を設置する大学及び連携外国大学別にこの書類を作成すること。共同開設科目については、当該科目の単位を修得した場合に、単位を修得したとする大学の書類に含めること。
- 2 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 3 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。